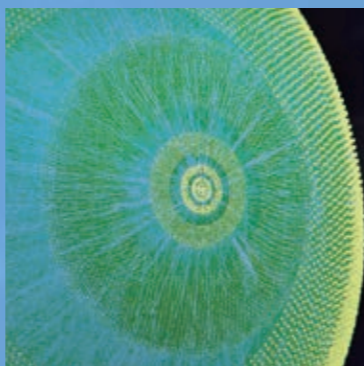




無限の可能性、ここが最先端  
-Outgrow your limits-



情報科学研究科



バイオサイエンス研究科



物質創成科学研究科

# 2016

## CAMPUS GUIDE

### 受験生のための大学案内

*Information Science*

*Biological Sciences*

*Materials Science*

Nara Institute of Science and Technology

# SENTAN

奈良先端科学技術大学院大学

Nara Institute of Science and Technology  
奈良先端科学技術大学院大学

<http://www.naist.jp/>



# 限りなき未知への探究

～最先端は奈良先端大から～



インターネット、マルチメディア、クローン、ゲノム、ナノテクノロジー……  
これらは、例えば20年前には一般の人が耳にすることもなかった用語。  
—ここ10数年における科学技術の進展には目を見張るものがあります。  
本学は、情報科学・バイオサイエンス・物質創成科学という

## “最先端”分野を学べる大学院大学。

最新のテクノロジーに対応した設備と実績豊かな教授陣を整えることにより、  
輝かしい成果を挙げる一方、産業界にも優秀な研究者・技術者を輩出し続けて  
います。また、3つの分野を相互に関連する学問としてとらえた、総合的・  
体系的な研究にも力を入れています。

これからも「先端」の名にふさわしく、科学技術の発展に貢献しながら、  
次世代に活躍できる人材を養成していきます。

## CONTENTS

受験生の皆さんへ	3
目的／教育使命／人材養成目的	
教育方針／全学のアドミッション・ポリシー	4

### 研究科情報

情報科学研究科	5
バイオサイエンス研究科	11
物質創成科学研究科	17

### 大学情報

総合情報基盤センター	23
学生支援	25
キャンパスマップ	29
キャンパス周辺エリアMAP	31
修了後の進路及び就職状況	33
資料その他	35
入学者選抜試験	37
学生募集イベント	39
アクセス	40



学長 小笠原 直毅

## 受験生の皆さんへ 「新たな可能性への挑戦を」

いま、どの大学院に進もうかと考えている皆さん、ぜひ、奈良先端科学技術大学院大学を見学してください。いつでも教員や先輩が案内します。また、教育研究活動の一端を体験できるプログラムを各研究科で実施しています。来ていただければ、ここが素晴らしい大学であることが実感できると思います。

奈良先端大には、21世紀の社会にとって基盤的な研究分野である、情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学を担う3つの研究科があります。本学は、活発な研究を行っている研究者を結集し、1991年に新構想の国立大学院大学として誕生しましたが、世界レベルの研究活動と、大学院大学としての教育カリキュラムによる人材育成の成果から、高い評価を獲得してきました。そして、誕生以来、修士課程修了者約6,900名、博士課程修了者約1,300名を社会に送り出し、それぞれが社会の色々な分野で活躍しています。また、山中伸弥先生を始めとして、多数の若手教員を全国の主要大学に教授・准教授として送り出し、それぞれの大学での先端的な教育研究の推進に貢献してきました。

こうした教育研究活動の結果、平成25年度、世界水準の優れた研究活動を行う大学群を増強し、我が国全体の研究力の強化を図ることを目的とした、文部科学省による「研究大学強化促進事業」の支援対象19大学の一つに選定されました。また、平成26年度には、我が国の大学そして社会の国際化を牽引する大学を支援する「スーパーグローバル大学創生支援」事業において、支援対象21国立大学のひとつとなっています。

今、科学技術はどんどん変わっています。本学がスタートした20年前、インターネットが社会に浸透し始めた時代でしたが、今や全世界がインターネットでリアルタイムに繋がれ、ビッグデータを扱う時代を迎えています。さらに、車、テレビ等、我々の周りのすべての機器がインターネットに接続されるモノのインターネット (IoT; Internet of Things) の時代が現実のものになりつつあります。バイオの分野では個々の遺伝子の構造と機能を研究する時代から、我々個人のゲノムを含め、様々な生物のゲノム配列を簡単に決められる時代になりました。物質創成の分野でも、分析・計測技術の高度化により、新しい物質世界の姿が見えるようになり、20年前には考えられなかった新しい物質の創成が可能になっています。

こうした科学技術研究の発展の中で常に最先端の研究に挑戦し、それを背景に、最先端科学技術の将来を担う人材を育成することが奈良先端大のミッションです。これからの科学技術に興味があり、それを学修し、技術者や研究者、あるいは専門性を生かした多彩な職業人として社会に貢献したいと考えている人ならば誰でも歓迎です。学部のない本学では皆さんはみな一緒に、新しい環境での学生生活を始めることとなります。組織的・体系的な教育システムが奈良先端大の特徴であり、また、世界の第一線の研究の場を体験することができます。そして、多くの学生が海外の大学で研修し、また、国際学会で発表を行っています。奈良先端大は世界の科学技術の発展に貢献するための国際化も目指しており、8割を越える研究室で日本人と留学生が机を並べて学修・研究に取り組んでいます。さらに、キャリア形成、就職支援の体制の充実も進めています。

これからの持続可能な社会の実現には、高い科学技術力を持ち、また、高い人間力を持った人たちが数多く、世界の多様な場で活躍することが必要です。私達は、そうした人たを育てて、世界と未来の社会に貢献していきたいと思っています。このような奈良先端科学技術大学院大学で、これまでの専門を活かし深化させて行くのもよし、新たな分野に挑戦するもよし、皆さんの新たな可能性の開拓へ挑戦してください。



## 奈良先端大はあなたの未来を拓きます!

目的	奈良先端科学技術大学院大学(奈良先端大)は、学部を置かない大学院大学として、最先端の研究を推進するとともに、その成果に基づく高度な教育により人材を養成し、科学技術の進歩と社会の発展に寄与します。
教育使命	奈良先端大は、先端科学技術の発展に資する人材を養成するために、学部を置かない大学院大学として平成3年10月に設置されました。奈良先端大の研究教育分野は、「情報科学」「バイオサイエンス」および「物質創成科学」の3つの基盤的な学問領域です。 21世紀における人類の豊かな生活と住みよい社会を実現し、持続していくためには、次代を担う人材を養成し、人類の存続に役立つ多様な研究成果を社会に提供することが不可欠です。そのためには、単に科学技術に精通するだけでなく、大局的な視点をあわせ持つ人材を育成する全人的な教育が必要です。 本学では、「情報科学」「バイオサイエンス」および「物質創成科学」という先端科学技術の基盤的な学問領域に加え、それらの融合領域の研究教育、また倫理教育や知的財産教育などにも積極的に取り組んでいます。
人材養成目的	体系的な授業カリキュラムと研究活動を通じて、博士前期課程では、社会・経済を支える高度な専門性を持ち、社会において指導的な立場に立てる人材を、博士後期課程では、科学技術に高い志を持って挑戦し、国際社会で指導的な役割を果たす研究者・技術者を養成します。
教育方針	専門教育カリキュラムに加えて、人間として備えておくべき倫理観、広い視野、理論的な思考力、積極的な行動力、総合的な判断力、さらには豊かな言語表現能力を養う、教育カリキュラムを実施します。 また、新たな融合領域へ挑戦する人材を養成するための、3研究科が連携した教育プログラム、高度な国際性を養成するための、海外の教育研究連携校との共同プログラムを含む、教育プログラムを実施します。 そして、自己評価や外部評価をフィードバックして、常に教育の質の向上を図ると共に、教育研究環境の充実と優秀な学生の経済的支援を進めます。
全学の アドミッション・ポリシー (入学者受入れ方針)	国内外を問わず、また大学での専攻にとらわれず、高い基礎学力を持った学生あるいは社会で活躍中の研究者・技術者などで、将来に対する明確な目標と志、各々の研究分野に対する強い興味と意欲を持った人を積極的に受け入れます。

# 情報科学研究科



## 安全で安心できる情報社会を実現する 最先端の研究拠点

超大規模情報と高速・高セキュリティ通信の科学と技術で世界を変える最先端の研究を展開しています。評価が高い教育カリキュラムと高度な研究力で、広範な分野の知識を網羅した人材を育成します。

### 研究科長のあいさつ



情報科学研究科  
研究科長  
小笠原 司

情報科学は、現在社会を支える基盤技術として必要不可欠なものになっています。そして、地球規模の多様な問題に対して果敢に取り組みイノベーションを起こすグローバルな人材が求められています。

奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科では、情報の理論に通じ技術に応用できる高度な技術者・研究者の育成を目指しています。本研究科の特徴は以下の通りです。

- 1) 大学院大学だけの大学
- 2) 世界的にも有数の研究設備と教育環境
- 3) 希望研究室配属の制度
- 4) 個性を重視した面接による入試制度

研究科には、様々な学部出身の多様な学生が集まっています。このような学生が研究室に集い、お互いに切磋琢磨することにより、与えられた課題を解くだけでなく、自発的に問題を発見してそれを解決する方策を見いだすという研究者・技術者に必要な素養を学びます。そして、日々変化する情報科学の最先端技術を講義で学ぶとともに、研究室での研究によりその応用力を身につけていきます。

我々と一緒に、ビッグデータ活用技術、情報セキュリティ技術、もの・ことづくりを目指したサービステクノロジー、ヒトを支援するヒューマンサポート技術などの課題に取り組み、現代情報社会のイノベーションに貢献しましょう。

### アドミッション・ポリシー

情報科学研究科では、情報・通信の科学と技術の発展や変化に柔軟に対応できる能力を身に付けるため、物事を論理的に考えることができ、また、自分の考えが的確に表現できる力を持った人を求めます。

博士前期課程

旺盛な好奇心と  
何にでも挑戦する  
実行力を持った人。

博士後期課程

専門テーマにおける  
問題の発見と解決の方策を  
見出す力を持った人。

### 情報科学研究科の人材養成目的と教育方針

情報科学研究科では、情報科学に係る高度な基礎研究を推進するとともに、感覚と判断を支援する情報処理技術、大規模な情報システムを構成する技術、安心できる情報ネットワークの構築と運用の技術、情報科学と生命科学が関わる広汎な融合研究など、情報科学に関する広範囲な領域をカバーした体系的な教育プログラムを実施して、将来の研究開発を担う研究者や高度な専門性を持った技術者を養成します。

#### 博士前期課程

##### ■教育目標

さまざまな分野の多様な経歴を持った人を受け入れ、広い視野と着実な技術を備えた修士を育成します。進学、就職、起業のいずれの進路であっても、情報科学に関連する幅広い知識と専門分野の先端の知識を修得すること、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めること、国際的に活躍するために英語の能力を高めること、適度な倫理感を持つことなどが不可欠です。これらの能力を備えて、社会の変化に柔軟に対応して活躍できる人の育成を目指しています。

##### ■指導計画と方針

①カリキュラム: 科目が対象とする分野を、「コンピューター科学」「メディア情報学」「システム情報学」に分けて選択の指針としています。情報科学以外の分野の経歴をもつ人のために、計算機科学と数学の基礎科目を開講しています。

②研究室配属: 入学式の前後に各研究室の紹介をして見学の期間を設け、学生の希望調査をもとにして所属する研究室を決定します。受入人数は研究室によって均等にするのではなく、学生の希望を最優先して、殆どの学生を第一希望の研究室に配属しています。

③ゼミナールにおける討論と発表: ゼミナールは国内外の一流の研究者や技術者から先端研究の紹介や技術の動向を伺い、質問や意見を積極的に述べる訓練をします。ゼミナールIIでは、各自の修士論文の研究計画や研究経過を報告して、指導教員や学生のコメントを受けます。

④プロジェクト実習: 授業では扱えなかった問題や課題について実習や実験を行い、実用化における設計能力を養います。またインターンシップとして他研究機関や企業での研究や開発に携わって、現場での問題解決を体験します。

⑤修士論文研究: 「研究論文」では、未知の問題について研究を進め、創意を發揮して問題解決することを目指し、その成果を論文の形に総括します。「課題研究」では、特定の研究分野の概観、技術動向の調査などを行い、報告書にまとめます。主指導教員の指導に加えて、副指導教員など複数の教員が協力して指導に当たります。

⑥英語教育の充実: 学年と能力に応じ、「英語ライティング法」、「英語プレゼンテーション法」等を履修して英語によるコミュニケーションと表現の能力を養います。また、年2回、TOEIC英語試験を受験できる機会を設けています。

#### 博士後期課程

##### ■教育目標

博士後期課程では、長期的な広い視野と、専門とする分野の深い知識を持って、独立して研究を進めることができる研究者を育成します。修了後は、大学や企業等の研究機関における高度な研究者や技術者、後進を指導できる教育者としての活躍が期待されています。情報科学に関連する分野は、進歩が激しく変化が絶えませんが、それによらない普遍的な方法(普遍性)、それに対応できる柔軟な方法(柔軟性)、信頼できる方法(信頼性)が求められます。これらの能力を備えて、国際的に活躍する人材の育成を目指しています。

##### ■指導計画と方針

①博士論文研究: 博士後期課程では博士論文の研究を進めることが課題の中心です。問題を見つけ出して、研究計画を立て、創意を持った研究を遂行して解法を提案し、さらには、開発あるいは実装します。関連研究を調査すること、自分の提案を客観的に評価すること、残された課題を明らかにすることも欠かせません。これらの過程で、教員が適切な指導と助言をして、研究を支援します。

②中間発表: 課程の途中で博士論文研究の経過と結果、および、その後の計画を発表します。複数の指導教員が、それに対して質問をし、意見やアドバイスを述べ、研究の有効な推進を支援します。

## TOPICS

### 個性を重視した広範な学生受け入れ

- 入学試験では筆記試験は実施しません。
- 所属研究室はオープンで活気に満ちた研究室群からあなたが選択。
- 経済産業省「大学評価」でA+ ランクのカリキュラムと集中履修。

### 優秀な学生を支援する豊富な支援プログラム

- 短期修了・奨励研究員など。
- 海外研修支援や国際研究会発表派遣支援など。

### スーパーリサーチグループによる垣根を越えた研究プロジェクト

- 多言語多元ビッグデータプロジェクト

### 最先端の「曼陀羅」情報環境

- 超高速ネットワーク
- 大容量ファイルサーバ・大規模計算サーバ・情報科学研究システムなど。

### 秀でた競争力で世界最高水準の大学院づくりを推進

- 情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業  
「情報セキュリティ教育プログラム SecCap」
- グローバルアントレプレナー育成促進事業  
「[モノ]のインターネット」分野でのグローバルアントレプレナー育成プログラム Geiot」

### 外部からの高い客観的評価

- 「研究水準」「教育水準」ランキング 全国トップクラス
- 教員一人当たりの特許ライセンス収入 全国トップクラス
- 教員一人当たりの研究経費 全国トップクラス

## INFORMATION

- 情報科学研究科ホームページ

<http://isw3.naist.jp/home-ja.html>

- 研究室の見学「いつでも見学会」

<http://isw3.naist.jp/Contents/Others-ja/CampusTour-ja.html>

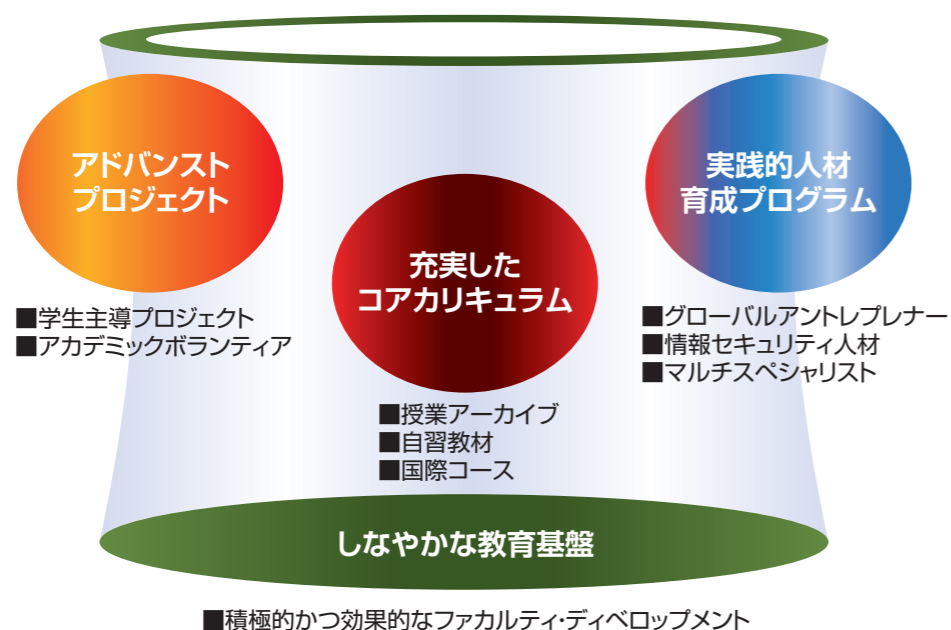
- 情報科学研究科入試情報ブログ

<http://is-exam-www.naist.jp/blog/>

# 未来を拓く最先端の研究はもちろん、国際性や実践力を重視した人材育成にも全力を注ぎます。

情報科学研究科の「コアカリキュラム」は、情報科学の基礎から最先端までを網羅するべく綿密に設計された授業群により構成されます。各科目について、授業風景とテキストを連動させた電子アーカイブが作成されます。また、充実した英語科目に加えて、英語の基礎を学ぶためのeラーニングシステムや国際会議発表のための科学技術英語自習用ビデオが提供されます。さらに、英語のみで履修可能な「国際コース」も設置されています。

コアカリキュラムを支える「しなやかな教育基盤」においては、海外の大学へ若手教員を派遣して研究指導方法の研修を行う等の取り組みを行っています。さらに、アカデミックボランティア、学生主導型研究プロジェクトなどの「アドバンスプロジェクト」や、セキュリティ人材や複合分野型の技術人材、アントレプレナーなど様々な人材モデルを育成する「実践的人材育成プログラム」により、実社会に通用する実践力を身に付けることができます。



## 国際コース

情報科学研究科では、平成23年度に、学生募集・入試、コースワーク、研究指導、福利厚生をすべてを英語で行う国際コース(International Program)を博士前期課程に設置しました。平成26年度には前期課程に入学した留学生15人のうち13人が国際コースを選択しています。国際コースでは、専門科目24単位(必要単位数16単位)、一般科目10単位(同6単位)が英語で開講されています。また、この国際コースおよび既に留学生の受け入れ体制が充実している博士後期課程を合わせて発展させた教育プログラム「コースワークと実践教育を重視した情報科学国際コース」が、文部科学省「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択となりました。このプログラムでは、平成25年10月から優先配置枠の国費留学生10人を含む20人の留学生を毎年受け入れ、英語によるコースワークと研究指導に加えて、CICP(学生主導プロジェクト型教育、別項参照)への参加、産学連携および国際インターンシップを実施します。



授業風景(日本文化入門)

## アドバンスプロジェクト

### ◆アカデミックボランティア

アカデミックボランティア教育は、大学院教育の一環として学生が小中学校との連携教育に参加し、学生自身が教えることによって、広い視点や実践的知識、コミュニケーション能力を養うものです。



アカデミックボランティア教育  
～小学校でのロボット製作実習

### ◆学生主導プロジェクト型教育

学生主導プロジェクト型教育は、学生が自主性、国際性、倫理性を育む支援を行うものです。具体的には、学生(グループでも可)が自身で企画・立案した研究開発プロジェクトのうち、優れたプロジェクトに予算(実績では平均60万円/プロジェクト)を支給するとともに、国際会議での成果発表に向けた英語によるプレゼン指導を行います。平成27年度には、11件の独創的なプロジェクトが採択され、スマートホーム設計支援システムや内視鏡手術技能の評価支援システムなどのプロジェクトが実施されています。



プロジェクト成果発表会の様子

## 実践的人材育成のためのサブプログラム群

### ◆モノのインターネット分野におけるグローバルアントレプレナー育成プログラム Geiot (グローバルアントレプレナー育成促進事業)



IoT分野での起業には、社会的ニーズを見抜き、それを技術に裏打ちされたビジネスプランへと導くための総合力が求められます。情報科学研究科では、これまでに、ロボティクス、ソフトウェア、ネットワーク、セキュリティなどの分野において、先導的、かつ、実践的な人材の育成に取り組んできました。これらの取り組みをもとに、IoT分野における技術志向の起業家を育成するという、より挑戦的なプログラムを実施しています。

GEIOTのコースカリキュラムは以下の4ステップで構成されます：

1. 起業家マインドの醸成：著名アントレプレナーらの講演などを通じて、起業に対するビジョンや起業家マインドを形成します。
2. 要素技術の実践的教育・研究指導：座学とワークショップの組合せにより、実践的な要素技術を学習します。
3. 総合PBL：役割分担を強く指向したチーム構成による、技術革新から起業や事業化に至るプロセスを包括したプロジェクト型の演習を行います。
4. グローバルな発展課題：1～3までの取り組みで優秀な成果を挙げたチームが選抜され、海外でのビジネス提案に挑戦します。さらに、プログラム修了後も(公財)大阪市都市型産業振興センター等との連携により起業支援等の個別フォローアップを行います。

### GEIOTがめざすグローバルイノベーションのためのエコシステム



### ◆情報セキュリティ教育プログラム SecCap (情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業)



我が国が抱える種々の社会的課題を最先端の情報技術を駆使して解決すると共に、社会の新たな価値や産業の創出を情報技術の応用を通じて行える人材の育成を目指す。分野や地域の枠を越えた産学の協働ネットワークを構築し、多くの優秀な学生を育成すると共に実践的情報教育の知見を蓄積し広く普及させることを目的とします。本学情報科学研究科では、近年、社会的にも重要とされる情報セキュリティの分野に焦点をあて、情報セキュリティ分野の連携大学(本学、情報セキュリティ大学院大学、北陸先端科学技術大学院大学、慶應義塾大学、東北大学)および参加大学(神戸大学、和歌山大学)と連携し、専門的な知識を提供する講義群およびグループ学習を行う短期集中課題解決型学習PBLやCTF(Capture The Flag)への参加など実践的なSecCapプログラムを提供します。

日々、我々が直面する情報セキュリティに関わる深刻な問題に対して、迅速かつ適切に対応できるための人材育成は我が国において急務です。SecCapは、本学情報科学研究科がもつ経験を活かし、最新の情報セキュリティに関する知識を提供していくために、大学だけでなくベンダー・ユーザ企業の協力のもとで、教育コンテンツを開発・実行していくことを特徴とし、即戦力ある情報セキュリティ人材の輩出を目指します。



### ◆IT-Triadic (IT3):サイバーメディア社会におけるマルチスペシャリスト育成プログラム



ソフトウェア、セキュリティ、ロボティクス、三分野のスペシャリストを育成すると同時に、これらの技術を複合的に修得した統合型人材の育成に取り組んでいます。プログラム修了者には修了認定証が授与されます。各コースの詳細については<http://it3.naist.jp/> を参照してください。

#### ○マルチスペシャリスト育成 (Triadicコース)

統合的IT製品の企画・設計や開発プロジェクトを先導することのできる優れた人材のグローバルな育成を目的に、先端複合演習と上記三分野の基礎および専門科目群を活用したカリキュラムを履修者に合わせて柔軟に設計することで、上記三分野の技術を複合的に修得することができます。

#### ○次世代ロボティクス技術者育成 (RTコース)

本学のロボット分野の教育・研究ノウハウに加え、関西圏RT分野をリードする各機関・企業の英知を結集して開発された、実践的教育カリキュラムを提供し、社会連携型PBL(問題解決学習)を主体とする演習中心の授業群によって、次世代のロボティクス研究開発者を育成します。

#### ○高度ソフトウェア技術者育成 (Spiralコース)

大阪大学のCloudSpiral(クラウドコンピューティング分野における情報技術育成のための実践教育ネットワーク形成事業)を履修し、更に先端複合演習を履修することでクラウド分野に強いマルチスペシャリストを育成します。

#### ○情報セキュリティ技術者・管理者育成 (Keysコース)

SecCapプログラムを修了し、更に先端複合演習を履修することで、セキュリティ分野に強いマルチスペシャリストを育成します。



## message from

企業人事担当者



米山 雅武

パナソニック株式会社  
グループ採用センターNAIST 修了生は、  
多様な分野で活躍しています。

パナソニックは、1918年の創業以来、エレクトロニクス事業を通じて人々の暮らしを豊かにし、社会の発展に貢献することを経営理念として、事業活動を続けています。

「持続可能な社会への転換」が求められている今、当社は、創業100周年を迎える2018年に向けて、「エレクトロニクス No.1の「環境革新企業」を目指すというビジョンを打ち出し、省エネ機器の普及促進や創エネ・蓄エネ・エネルギーマネジメントなど、エネルギー利用の先進モデルを創出し、パナソニックならではの「家まるごと・ビルまるごと・街まるごと」のソリューションで、地球の未来と社会の発展への貢献を目指しています。

NAISTの修了生は、R&D部門での基礎研究から、商品や事業を担当する部門での設計開発、生産技術に至るまで、多種多様な分野・ポジションで活躍しています。

「最先端」の分野を学んでこられた皆さんが、新しい地球の未来と社会の発展に向けて活躍してくれることを期待しています。

このビジョンを実現するためには、高い志を持った仲間が集い、失敗を恐れず、新しいものを生み出そうとするチャレンジ精神で一丸となって取り組んでいくことが何よりも大切です。

世界を舞台に常に挑戦し続ける姿勢と尖った個性や能力を持った人材「グローバルチャレンジャー」を心よりお待ちしております。

## message from

修了生

世界トップレベルの教授陣と  
アットホームな環境

NAISTは大学院大学という特長を活かし、世界トップレベルで活動する教授陣との距離も近く、アットホームでありながらきめ細かい指導を受けることができます。現在私は米国の大学の博士課程に在籍していますが、NAISTでの研究内容、研究環境（教授陣や設備など）は世界的に見てもトップレベルだと改めて感じます。

このような世界レベルの研究環境だけでなく、入試時における門戸の広さもNAISTのユニークな特長です。私自身、文系か

つ社会人から入学したのですが、密度の濃いカリキュラムや研究室での勉強会、そして様々なバックグラウンドを持った同期や先輩方とのやりとりを通して、着実に知識や技術を身につけることができました。

オフには奈良や京都の寺社巡りができるなど、研究以外にもNAISTの魅力はたくさんあるのですが、それは皆さん自身で確かめていただければと思います。



坂口 慶祐

Johns Hopkins University  
Department of Computer Science  
Center for Language and Speech  
Processing  
(平成24年度 博士前期課程終了)

## message from

在校生①



古庄 泰隆

計算システムズ生物学研究室  
博士前期課程2年  
(熊本高等専門学校  
電子情報システム工学専攻 修了)

## 世界中の大学から幅広い背景を持った学生がきます

NAISTは研究活動において最適な環境です。この理由を説明していきます。

NAISTの大学との大きな違いはNAISTには学部が存在しないことです。そのため、大学と比べると研究室あたりの学生の人数は比較的少なく、スタッフの方や先生方と密に研究や卒業後の進路について話すことができます。さらにNAISTには世界中の大学から幅広い背景を持った学生が入学してきます。彼らから自分の知らなかったことを学べたり、刺激を受けることができるのもNAISTの大きな利点の一つでしょう。

最後に、研究環境における最も大切な項目として苦楽を共にする同期や先輩の存在があげられます。前述の環境で研究を続けてきたNAISTの学生は非常に優秀です。彼らから影響を受け、彼らと競い合うことで自分の研究能力を更に高めることができるでしょう。

NAISTは研究活動において最適な環境です。一度、研究室を訪問してNAISTの空気を感じていただけたら幸いです。皆さんに会える日を心待ちにしています。

## message from

在校生②

## 自分次第でどんなことにも挑戦できる世界トップレベルの環境

NAISTは大学院大学という特徴を活かし、世界トップレベルの研究環境を持ちつつ、学生のやりたいことを最大限にサポートする大学です。

世界的に活躍する教授陣からきめ細やかな指導を受けられることはもちろん、最新の設備で最先端の研究に携わることができます。現在、私はNZの大学に一時在籍していますが、NAISTの研究環境（特に、教授陣と設備）は世界トップレベルだと改めて実感しています。

また幅広い分野の人材を受け入れている点も本学のユニークな部分です。私も情報学部の出身ではありませんが、質の高い

授業や勉強会での先輩や仲間とのやり取りを通じて、確実に知識や技術を得ることができました。

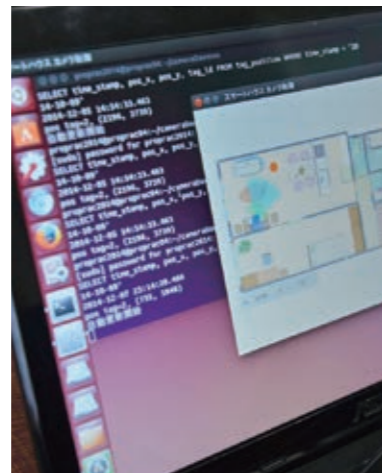
研究以外にも、海外留学（ダブルディグリープログラムなど）や国内外の技術・起業コンテスト参加、ベンチャーなどへの充実した支援制度があります。

進学を考えている皆さんは、大学院で何がしたいですか？ NAISTならその全てを実現できると、私は確信しています。

少しでも興味があればオープンキャンパスなどを利用して見学しにきてはいかがでしょうか。実際にお会いできるのを楽しみにしております。



平部 裕子

ユビキタスコンピューティング  
研究室  
博士後期課程2年  
(鹿児島大学情報生体システム工学科  
工学部卒業)

# バイオサイエンス研究科



## 生命現象の基本原則を求めて 最先端の研究を推進

生命現象の基本原則と、生物の多様性を明らかにする最先端の研究を推進しています。さらに人類の福祉に貢献する開発研究にも取り組み、世界的レベルで活躍できる多彩な人材を養成します。

### 研究科長のあいさつ



バイオサイエンス研究科  
研究科長  
箱嶋 敏雄

本研究科では、「学部を置かない国立の大学院大学」として、既成の学部・学科にとらわれない最先端の生物科学の研究を通して大学院教育がなされます。本研究科への入学に出身学部の制限はありません。生物学関連(生物学・医学・薬学・農学)の学部のみならず、化学や物理や工学(化学工学、物理工学、システム工学等)、あるいは数理学といった学部出身者も、バイオ関連の研究への熱意と新しいことに挑戦する勇氣、そして、科学する素養のある学生諸氏を受け入れます。本研究科は、1994年に始動して以来、瞬く間にバイオサイエンス研究のハイライトシーンに登場して、我が国の大学研究機関のトップグループの仲間入りを果たしました。常に最先端の研究インフラが維持されており、優れた研究環境で重要な成果が幾つも生み出され続けています。これらの成果の大半は、新設大学である本学にも勇気をもって入学してきた学生達の研究論文です。その中には、よく知られたiPS細胞の創成に至る論文もあります。実際、iPS細胞の創成実験をやり抜いた高橋君は本学の山中研の1期生です。最先端の研究に

は競争はつきものです。学生諸君は、激烈な国際競争を戦い抜いた「侍」達であり、頼もしい戦友でありました。本研究科は、このような最先端研究で戦士となる覚悟のある学生諸氏を歓迎します。活発な研究と教育の成果を背景に、平成21年度に文部科学省が実施した評価では、本学の研究・教育水準は86国立大学法人中でトップであるとの評価を受けています。また、本研究科は、文部科学省の実施している21世紀COE拠点(2002年～2006年)、グローバルCOE拠点(2007年～2011年)、卓越した大学院拠点形成支援(2012年～2013年)等の大学院強化プログラムの全てで採択されています。これらの原資を有効に活用して、5年一貫の博士課程であるフロンティアバイオコースや、2年の修士課程であるバイオエキスパートコースの充実を図っており、大学院生が抱える進路や経済的な諸問題等の解決や、若手研究者・技術者育成の制度を充実させています。次世代の研究者・技術者を目指す学生諸氏が研究に専念する環境を提供することを約束します。

### アドミッション・ポリシー

バイオサイエンス研究科では、次のような人を求めます。

①生命現象の基本原則と生物の多様性を分子レベル及び細胞レベルで解明することに熱意と意欲を持っている人。

②バイオサイエンスの深く広い専門知識を人類社会の諸問題の解決に役立たせることに強い関心を持ち、幅広い科学技術分野での活躍を志している人。

### バイオサイエンス研究科の人材養成目標と教育方針

バイオサイエンス研究科では5年一貫で博士号を取得するフロンティアバイオコースと2年で修士号を取得するバイオエキスパートコースの2コース制をとっています。

両コースとも、講義や演習で得た知識および能力と技法を基盤として、各研究室で実際の最先端の研究実験に取り組みながら科学的な思考の方法論を身につけ、問題解決のトレーニングをします。学生の多様な学習歴や進路希望に応じて、きめ細かな教育と研究指導をプロセス管理された教育プログラムでおこないます。また本研究科では常に自己評価、外部評価およびFD研修による教育の改善をおこない、教育スタッフのさらなるスキルアップを進めています。

■フロンティアバイオコースでは、先端科学技術分野に係わる高度な研究を推進するとともに、独立して研究の立案や実践ができ国際社会で指導的な役割を果たす研究者を5年間の標準修業年限で育てる事を目的としています。そのために、配属研究室での研究指導だけでなく、研究室横断的なプログラムであるサマーカーンプ等への参加を義務づけています。先端生命科学の多様な研究課題やアプローチの理解と興味と深化、プレゼンテーション能力や討論力の向上のために、個々人にあわせて複数のアドバイザー委員が指導をおこないます。さらに外国人教員による英語講座、国際会議での発表支援や短中期の海外研修、海外の研究教育機関の教員による少人数制集中講義・演習、国際学生ワークショップへの参加を通して実践的な英語教育をおこないます。加えてTA、RA制度により学生の経済的支援をおこないます。

■バイオエキスパートコースでは、高度な知識を生かして企業などで活躍できる人材を博士前期課程2年で育てることを目的としています。多種多様な講義と、さらに理解を深めるための少人数クラスのゼミナールを一つの流れとして、バイオサイエンスにおける諸問題に取り組むために必要な知識、能力、技法を習得します。フロンティアバイオコースと同様に、研究室配属後も研究室の枠を超えた複数のアドバイザーによる研究指導が行われます。広い基礎知識や高度の専門知識の習得ならびに科学倫理の養成のための講義に加え、プレゼンテーションやコミュニケーション能力の開発、また、外部から招く企業人の講義、企業活動体験などを通して卒業後のキャリアパス設計を指導します。さらに実用的な科学英語教育をおこないます。

■国際コースでは、優秀な学生を世界から受け入れ、高度な専門知識と研究スキルを身につけたグローバル人材を育てることを目的としています。そのために、入試、基礎・専門科目の講義、さらに配属研究室での研究指導、学位審査にいたるまで全てを英語でおこないます。

現代社会においては、人々の日常生活のあらゆる場面で科学技術と深いつながりを持っています。本研究科では科学技術社会を幅広く支える多様な人材の養成をめざした教育プログラムをカリキュラムに盛り込んでいます。

#### ①専門的知識を

身につけるための体系的なバイオサイエンスの教育プログラム

関連科目：先端科学のための実践生物学、バイオゼミナール、応用生命科学、各種の特論講義など

#### ②幅広い視野や展開力を

身につけるための関連領域に関する教育プログラム

関連科目：計算機システム、アルゴリズム、物質創成科学概論など

#### ③自立した研究者や技術者として

必要な能力や技法を身につけるための教育プログラム

関連科目：各研究室での研究実験、科学技術論・科学技術者論、プロジェクト演習など

#### ④科学技術に対する

社会ニーズに関する高い素養を身につけるための教育プログラム

関連科目：社会生命科学、ゲノム先端科学、バイオインダストリー特論、知的財産特論など

## TOPICS

### 多彩なバイオサイエンス研究体験イベント

バイオサイエンス研究を体験していただくために、多彩なイベントを開催しています。

#### 1. いつでも見学会

- ・興味のある研究室を見学。
- ・研究室の教員や大学院生から思う存分話を聞くことができます。1日で複数の研究室を見学することも可能です。

#### 2. バイオ塾(大学生インターンシップ)

- ・2泊3日の合宿型プログラムで最先端のバイオサイエンス研究を体験。
- ・教員、大学院生、研究員、参加者との交流を通して入学後の大学院生活を具体的にイメージできます。

#### 3. 個別インターンシップ

- ・希望する研究室で2日～3日のバイオサイエンス研究を体験。
- ・バイオ塾に参加出来なかった方やいつでも見学会よりも深く研究室の事を知りたいと思った方向けのプログラムです。

#### 4. 学部生リサーチフェロー

- ・最大1か月にわたって、1つの研究室でじっくりとバイオサイエンス研究生活を体験。
- ・入学前に大学院でのバイオサイエンス研究生活を体験できます。

#### 多様な受験制度

バイオサイエンス研究科では、生命現象の基本原則を解明することに熱意もつ方や生命科学の知識を人類社会に役立てることに関心を持つ方など、バイオサイエンスの幅広い領域に興味を持つ多様な人材を求めています。このような多様な人材が当研究科を受験するチャンスを増やすために、多様な受験制度を用意しています。



## INFORMATION

バイオサイエンス研究科ホームページ  
<http://bsw3.naist.jp/>

入試情報  
<http://bsw3.naist.jp/admissions/>

# バイオサイエンス研究科は世界で活躍できる 研究人材育成をめざしています。

## フロンティアバイオコースの国際化教育カリキュラム

バイオサイエンス研究科はグローバル研究人材の育成を目指して、平成17年度から本格的な国際化教育を進めてきました。さらに、平成19年度に生命科学系の「グローバルCOEプログラム」に採択されてからは、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を推進し、フロンティアバイオコースの正規授業科目として国際化教育カリキュラムの充実を図ってきました。また、平成20年度からは、本学の留学生特別推薦選抜制度を活用して、東南アジアのバイオ系トップ大学から能力と意欲の高い留学生の組織的な受入を開始し、博士後期課程の学生の3分の1を留学生が占めるまでになり、日常的に国際的な環境の下での教育研究活動を行っています。

## 組織的な国際連携教育と地球レベルの人材交流

バイオサイエンス研究科ではカリフォルニア大学デービス校生物科学部（UCD-CBS）、中国科学院遺伝学発生生物学研究所（CAS-IGDB）と大学院教育および先端研究での国際連携を図っています。UCD-CBSの全面的な協力で科学英語特別講義を開講していますが、これは海外研究活動インターンシップも兼ねています。UCD-CBSの教員は本学で実施する国際バイオセミナーの授業を担当したり、インターネットでのテレビ会議システムを利用した共同授業にもUCD-CBSの大学院生とともに参加します。本研究科とUCD-CBS、CAS-IGDBの共催で国際学生ワークショップを毎年開催していますが、そこでの研究発表や交流を活発に行う能力を養成することを国際化教育カリキュラムの最終ステップにしています。

## 海外ラボインターンシップ

カリフォルニア大学デービス校の生物科学部の研究室において、実験や議論などを実際に体験する1ヶ月間の研修プログラムです。また、同大学、英語研修施設では科学英語の研修を受けます。宿泊はホームステイ形式で、24時間英語環境で生活します。

### 海外ラボインターンシップに参加して

荻田 聡 動物細胞工学研究室

米国のトップレベルの大学の研究室に滞在して、研究室活動の一端を体験することができる貴重な機会です。さらに、自分で滞在する研究室を希望することができます。私はこの貴重な機会に自分の視野を広げたいと考え、あえて自分の研究分野とは全く異なる分野の研究室を希望しました。英語だけの初めての環境に最初は戸惑いましたが、私に合わせて研究や実験内容について丁寧に説明してくださったJohn Albeck先生や、ラボメンバーのおかげで先端大の自分の研究室では学ぶことの出来ない多くのことを学ぶことができました。また、英語研修では英語でのディスカッション能力を磨き、ホームステイでは異なる文化を体験できた濃密な1ヶ月でした。海外ラボインターンシップはエキサイティングな体験を通して、英語能力と研究だけでなく人間的にも大きく成長できるプログラムだと思います。



## 国際バイオゼミナール

主にカリフォルニア大学デービス校の教員による、2日間の集中講義です。3回の授業で講師の研究の背景や基礎知識を学び、研究セミナーで研究内容の最先端について議論を深めます。講義はもとより、質疑、議論すべて英語で行われます。

### 国際バイオゼミナールに参加して

伊達山 泉 分子情報薬理学研究室

学内にいながらまるで留学しているような体験ができるのが国際バイオゼミナールです。英語でのセミナーであることや、研究分野が違ふことに抵抗を感じるかもしれませんが、最初に初歩的な授業から解説して下さるので、最終日には一度きりの日本語の研究セミナーより理解が深まることもあります。講師の先生方はどんな基礎的な質問にも快く答えて下さるため、疑問を持ち、質問することに積極的になれます。また、受講クラスの過半数は留学生で、彼らの積極的で鋭い質問も刺激的です。講師の先生からのアドバイス、留学生たちの斬新な質問は多国籍の授業だからこそ。国際バイオゼミナールに参加して、研究知識だけではなく、多様性が生む新しい発想に触れられ、視野が広がりました。



## 国際学生ワークショップ

国際学生ワークショップでは、日米中の大学院生がワークショップを協同で運営し、研究交流を行います。1週間の会期中、寝食を共にすることにより、研究発表のみならず、様々な場面で英語を公用語とするコミュニケーションが実践されます。

### 国際学生ワークショップに参加して

佐藤 仁美 動物細胞工学研究室

国際学生ワークショップは、カリフォルニア大、生物科学部と中国科学院からの大学院生が先端大の学生と協同でワークショップを運営し、研究発表や議論をおこなうプログラムです。外部のセミナーハウスで1週間をともにするため、思っていた以上に英語でのコミュニケーション能力を鍛えられる機会となりました。分野ごとにおこなう研究発表では、学生だけでなく各大学の先生も議論に参加して下さり、貴重なご意見をいただくことができました。他にも、ビデオ作成やパネルディスカッション、京都観光などイベントが盛りだくさんで慌ただしく時間が過ぎて行きました。非常に印象に残っているのは、たどたどしい英語や不慣れなもてなしに対しても皆が寛容で協力的であったことです。そのおかげで、ワークショップを無事に終えることができ、よい思い出ができたと思っています。これからNAISTに入学される皆さんもぜひ国際学生ワークショップを体験してみてください。

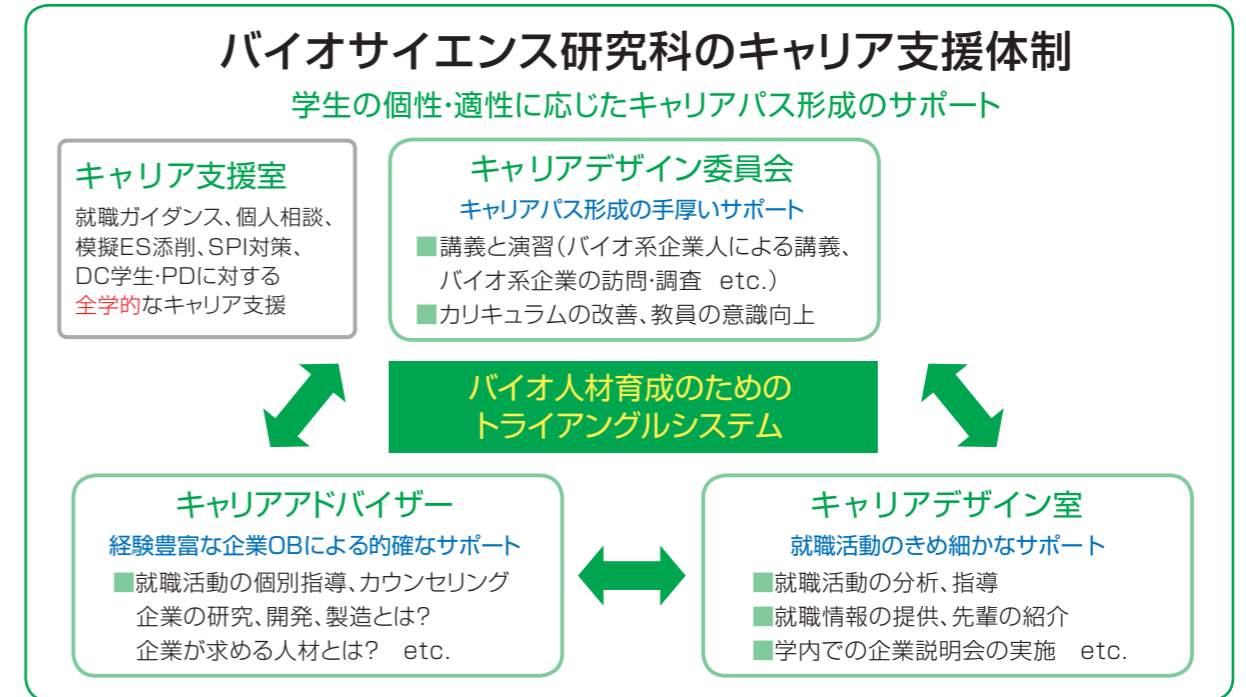


# バイオサイエンス研究科のキャリア支援体制 「バイオ人材育成のためのトライアングルシステム」

皆さんの個性に応じたキャリアパス形成をサポートします !!

将来の進路に関しては「修士を修了したら、すぐに社会で働きたい」「ドクターコースに進学したいが、就職が心配だ」「まだ目標がなく、漠然としている」など人それぞれです。本研究科では、一人ひとりの個性や適性に応じた多彩な「キャリア支援プログラム」を用意し、皆さんが安心して研究や勉学に集中できるように、キャリアパス形成に関する様々なサポートを行なっています(下図)。

具体的には、バイオ分野で幅広く活躍できる人材を育成するために有機的な支援システムを構築しています。就職や進路の悩みについては、経験豊かなキャリアアドバイザーが個別指導を丁寧に行なっています。また、キャリアデザイン委員会では就職活動をきめ細かくフォローしています。もちろん、将来設計のためのカリキュラムも体系的に整備しています。



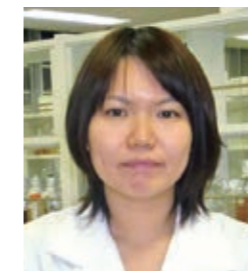
桃原 淑 ロート製薬株式会社 研究開発本部 製品開発部  
(平成24年度 博士前期課程修了)

私は製薬会社で内服薬の開発を担当しています。携わる内容は在学時と大きく変わりましたが、目標を設定し結果を導くまでのプロセスは研究科での基礎研究と共通する部分が多々あり、本学で学んだことが活かしていると実感します。本学では企業による就職説明会が数多く開催されるので、日々の研究を行いながら同時に就職活動ができる非常に恵まれた環境があります。企業説明会ではOB・OGが来学・説明することも多く、先輩の生の声を聞くことができます。私は学内就職セミナーで「企業で働くこと」についての理解を深め具体的なイメージを描くことができました。さらに就職アドバイザーの先生方はエントリーシートの添削や模擬面接の指導のほか、就職活動で生じる不安や将来のキャリアイメージなどにも丁寧かつ的確にアドバイスして下さる大変頼もしい存在です。研究活動と就職活動の両立を徹底して支援する本学の環境はとても強力で信頼できます。



谷尾 勇祐 住友ゴム工業 ハイブリッド事業本部 技術部  
(平成20年度 博士前期課程修了)

私は現在ゴム製品の開発を担当しています。開発業務は研究よりも商品やお客様に近い立場での仕事ですが、大学院での研究活動で培った実験の進め方など研究・技術者としての基礎は現在の仕事に大いに役立っています。NAIST在籍時に就職活動を始めた当初は、会社説明会はどうすれば参加できるのか?エントリーシートって何?というように右も左もわからない状態でした。しかしNAISTでは学内での会社説明会開催やエントリーシート添削、その他どんな相談でもできる手厚い就職支援体制があり、スムーズに就職活動を進めることができました。また、この就職支援体制を活用して様々な業種の説明会に参加することで就職に対する視野を広げることができ、その結果満足できる就職ができたと考えています。このようにNAISTには就職への支援体制が整っており、研究活動と就職活動の両立ができる環境があります。



西野 恒代 協和発酵バイオ株式会社 バイオプロセス開発センター  
(平成20年度 博士前期課程修了)

いま、NAISTでの2年間を振り返ると、講義・研究・就職活動と非常に濃く、充実した学生生活だったと感じます。研究に没頭できる環境で、目的に対してとことん考え、追求し、結果を出すという技術者の基礎を学べたことは、現在も微生物の研究をしている私にとって、大きな励みとなっています。また、学内での企業研究者の講義や就職支援のおかげで、効率よく情報を得ることができ、的確に就職活動を行うことが出来ました。特に、就職アドバイザーの先生方からは、提出資料の添削に加え、企業研究者であった経験から、企業内の成り立ち、研究の専門的知識を教えてくださいいただき、私自身の進路を具体的に形作ることができました。企業内での研究、開発は捉え辛く感じるかもしれませんが、NAISTでは、毎日の研究、就職支援を通して、リアルな自分の将来像を描くことができます。



message from 企業人事担当者



波多江 道子  
サントリーホールディングス  
人事部

「挑戦」と「創造」の歴史に  
あなたも新たなページを

「やってみなはれ」これはサントリー創業者の鳥井信治郎の口癖でした。

サントリーは創業以来、常にこのチャレンジ精神をもって「新しい価値の創造」に向かって積極的に企業活動を推進し、酒類、食品・清涼飲料から、健康食品・花・外食と常に新しい市場を創造してきました。

弊社では、研究所や工場を中心に奈良先端科学技術大学院大学様(以下NAIST)のOB・OGが複数名活躍しています。ビールの醸造や飲料の商品開発など、分野は様々です。

必ずしも大学院での研究が業務に直結しているとは限りませ

んが、業務へのアプローチの仕方や論理的思考など、大学院時代での様々な経験が大いに役立つものと思います。

また、NAISTでは、挑戦する人材を養成されており、サントリーの「やってみなはれ」の社風と似ているように感じます。

サントリーの今日に至るあゆみは、まさに絶えざる挑戦と創造の歴史です。「挑戦」と「創造」、この歴史にあなたも新たなページを加えてみませんか。

今後もNAISTの方々といひご縁を持つことができれば大変嬉しく思います。

message from 修了生

バイオサイエンスの  
「いろは」から「もせす…ん」まで

奈良先端科学技術大学院大学には学部がなく、希望者の背景を問わず門戸は開かれており、誰でもからバイオサイエンスに触れ学ぶことができます。また、世界トップクラスの教授陣と世界最先端の実験器機を有する研究環境があり、第一線で研究を行いたい人にも適した大学院です。まさに1から10までのすべてを経験することのできる大学院です。

充実した施設に加え、学生へのサポートも手厚く、国際学会での発表や海外での共同研究など貴重な機会に恵まれています。私も、大学院時代にサポートしていただいた機会をきっかけに、現在、米国のカーネギー研究所で博士研究員として働いています。

また、これからはバイオサイエンス分野と物質や情報分野の融合領域での新技術・新分野の創出が課題となってくると思います。3つの分野を一つの空間に有するこの大学院で研究することの意義は大きいと考えられます。

自分を成長させる環境は整っています。是非、奈良先端科学技術大学院大学に入学し、大学院での時間を有意義に過ごし、有為の奥山を越えるための力を培って下さい。



中村 匡良  
Carnegie Institution for Science,  
Department of Plant Biology  
(平成20年度 博士後期課程修了)

message from 在校生①



角谷 侑香  
花発生分子遺伝学研究室  
博士前期課程2年  
(大阪工業大学工学部卒業)

どんなことでもチャレンジできる  
良い環境

NAISTには、たくさんの魅力があります。私がNAISTに入学して、感じた魅力を紹介したいと思います。

NAISTは最先端の研究が多く、他分野の研究室が集まっています。私は、大学では動物の研究をしていましたが、NAISTでは違う分野の研究をしてみたいと考えていました。入学後、さまざまな研究の話を聞き、その中でも植物の分野に興味を持ちました。現在、大学の時とは違う分野の植物の研究をしています。とても面白く、充実した日々を送っています。私のように他分野から入ってくる学生も多く、そのよう

な学生のために各分野の基本的な授業があるので、安心して分野を変えることができます。

また、研究室に留学生が所属されていることが多く、日常生活で英語に触れる機会が多くあります。英語のコミュニケーションの勉強になりますし、留学生の方達と交流して自分の世界を広げることができます。

NAISTは、自分から行動すれば、どんなことでもチャレンジできる良い環境です。進路に迷っている方はぜひ一度見学に来てみてください。

message from 在校生②

行きたい研究室が  
必ず見つかる大学院

大学3年生のときに大学院への進学を決意した私は、地元でもある関西の大学院が主催するオープンキャンパスに参加し、自分に合った大学院を選ぶことに奔走していました。そんな私が、数ある大学院の中からNAISTを選んだ理由は2つありました。ひとつは入学後に研究室を決めることができるということです。NAISTでは、入学から研究室の決定までに約1ヶ月という十分な時間が確保されています。この期間に自分が興味をもった研究室を何度でも訪問することができ、先生や先輩方と直に話すことで、研究内容はもちろんのこと、研究室の雰囲気や人間関係等、さまざまな視点から本当に自分に合った研究室を選ぶことができます。

2つめは高度な教育機関であるということです。植物科学領域、メディカル生物学領域、統合システム生物学領域から成るバイオサイエンス研究科には、各分野の先端に行く優秀な研究者が数多く在籍しています。学生をとってみても、出身大学を離れ、能動的に進路を選択した意欲のある国内外の学生が在籍しており、多様な観点を踏まえたディスカッションが日々行われるなど、多くの刺激を受けることができる環境にあります。

大学院への進学を考えているあなた。一度オープンキャンパスやバイオ塾等の機会を通してNAISTを見に来て下さい。あなたが、行きたい!と思える研究室がきっと見つかるはずですよ。



松田 崇斗  
細胞シグナル研究室  
博士後期課程3年  
(近畿大学農学部卒業)



# 物質創成科学研究科



## 物質の仕組みを深く理解し新しい物質や構造を創出

人類の未来に役立てる新しい素材・材料を開発するため、次世代を担う創造性豊かな人材を養成します。また、物質と光の相互作用を基礎として物質科学をとらえ直す「光ナノサイエンス」の展開をめざしています。

### 研究科長のあいさつ



物質創成科学研究科  
研究科長  
垣内 喜代三

物質創成科学研究科では、物質科学や融合領域の創造的かつ先端的研究を行うことに熱意と意欲を持ち、技術革新や幅広い科学技術分野での活躍を志している人を求めています。出身分野にとらわれないからの体系的な教育システムを組み、これからの産業界、学界を先導する優れた技術者、研究者を組織的に養成しています。特に本研究科の教育プログラム「新領域を切り拓く光ナノ研究者の養成」は、「組織的な大学院教育改革推進プログラム」で最高の評価を得ました。

さらに、国際的に活躍する技術者・研究者を目指す大学院生に、5年一貫教育コースの中で3段階のステップアッププログラムを提供し、学内での基礎英語能力の強化、米国での1ヶ月に及び物質科学英語研修、さらに世界の著名大学で数ヶ月のラボステイを通して、国際性を涵養する質の高い組織的な教育も行っていきます。

本研究科では、ナノテクノロジー・環境・ライフエネルギーの

社会的要請の強い先端科学技術の課題に独自の視点で融合的に取り組むため、「光ナノサイエンス」を基軸とした研究を展開しています。「光ナノサイエンス」とは、光と物質の相互作用を基礎として物質科学を捉え直したもので、「光で観る」、「光で創る」、「光で伝える」という観点から、物質の仕組みを電子、原子、分子のレベルに立ち返って深く理解し、これに基づいて新しい物質、構造、機能を創り出すことを目指しています。この目的を達成するため、物質科学に関わる物理・デバイス・化学・バイオの幅広い分野の優秀な研究者が一堂に集い、最先端の融合・学際研究を強く推進しています。

本学は学部を持たない大学院大学であるため、入学した皆さんは、同級生と同時に研究をスタートすることができます。このような優れた教育プログラムを受け、恵まれた環境で最先端の物質科学の研究に携わり、私達と一緒に、社会や科学技術に貢献する楽しさ・充実感を味わってみませんか？

### アドミッション・ポリシー

物質創成科学研究科では、次のような人を求めます。

①物質科学や融合領域の創造的かつ先端的研究を行うことに熱意と意欲を持っている人。

②人類社会の諸問題や産業界の要請に強い関心を持ち、技術革新や幅広い科学技術分野での活躍を志している人。

### 物質創成科学研究科の人材養成目的と教育方針

- ・博士前期課程にはα、π、σ、iコースが設置されています。
- ・博士後期課程にはα、π、τコースが設置されています。

各コースの特徴は以下のとおりです。

#### αコース(前期、後期課程)

前後期課程で一貫した博士研究指導を行うことで専門領域に関する深い学識と豊かな創造力を有する人材を育成します。積極的な短期修了を目指します。

#### πコース(前期、後期課程)

融合領域の開拓を担う、複数の専門を有する柔軟で視野の広い研究者を目指し、博士研究の開始において学生がオリジナルな研究テーマを提案して修士研究とは異なる主指導教員を自ら選び研究指導を受けます。

#### iコース(国際コース、前期課程のみ)

英語だけで講義を行い、将来、グローバルに活躍する学生に向けた教育研究を行います。

#### σコース(前期課程のみ)

広範な物質科学の専門知識と方法論を身につけた高度専門職業人を養成します。

#### τコース(後期課程のみ)

産官学の多様な研究現場で活躍する研究者、技術者に対し、物質科学の高度な専門知識を教授し最先端の研究指導を行います。

#### 博士前期課程では

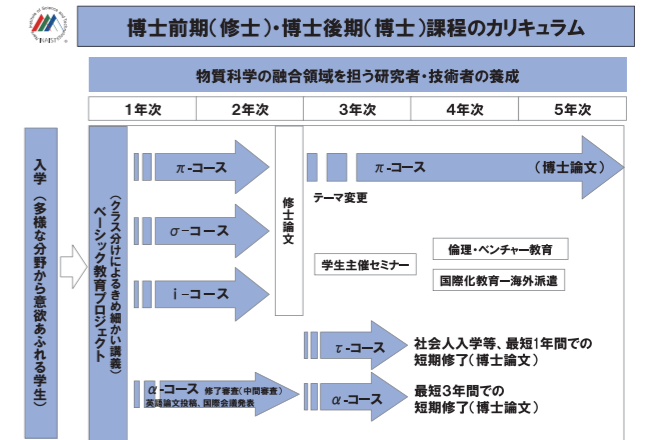
- ①前期課程の授業科目は、4月から9月の春学期に集中して開講されます。
- ②秋学期は、物質科学の融合分野をカバーする集中講義形式の物質科学特論I-IVと英語スキル向上のための物質科学英語ならびにiコースの講義が行われています。
- ③特別課題研究や修士論文研究などが、6月から取り組める日程を組んでいます。
- ④物質科学の広範な分野を網羅し、かつ多様な分野からの入学者に対応するために、物性・デバイス系科目から化学・生物系科目までの幅広い分野で基礎が学べる「基礎科目」を設置しています。
- ⑤まず4月入学直後に必修科目の「光ナノサイエンス概論」で物質創成科学研究科の全研究室で行われている研究の基礎と概要が、各研究室の教授、准教授により講義され、続いて、物質科学における光ナノサイエンスの基盤となる学術的なプラットフォームの形成のための「光ナノサイエンスコア」が全員必修で講義されます。
- ⑥光と物質の相互作用を理解するための基本科目「光と電子特講」や有機材料・生体材料の創成に必要な不可欠な基本科目「光と分子特講」、および光ナノサイエンスの先端融合領域開拓に必要な知識を講義する「先端融合物質科学」を開講し、これらの科目では習熟度に応じてエレメンタリークラスとアドバンストクラスのクラス別の講義を行います。



⑦さらに、先端科目や特論が開講され、幅広い科目が聴講できるカリキュラムを採っています。

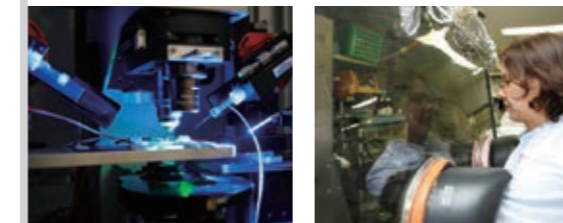
⑧英語だけで講義を行い、卒業に必要な単位がすべて取れる国際コースも設置されています。将来、グローバルに活躍する学生に向けた教育体制も充実しつつあります。

博士後期課程では、「国際化科目」「融合専門科目」「提案型演習科目」「融合ゼミナール」「総合研究科目」などを設け修了要件単位としています。また、社会環境や研究資源をグローバルに俯瞰し、国際共同研究を先導する研究リーダーを養成することを目的として、フランス・ポールサバチエ大学および台湾・国立交通大学とのダブルディグリープログラムを実施しています。博士後期課程在学中、1年間以上の海外滞在と共同学位審査を経て、両方の大学から博士の学位が授与されます。



※カリキュラムの詳細については、研究科紹介を参照してください。

## TOPICS



### 東京入試を実施

□7月に行われる第1回博士前期課程入学試験は東京会場でも受けられます。もちろん本学(奈良)会場でも受験できます。

### 学生の研究成果を公開—公開研究業績報告会

□毎年3月に行われる公開研究業績報告会では、博士・修士修了者の研究成果をポスターで発表します。このうち最も優れた研究については口頭発表も行います。最先端の研究成果に触れてください。

### 最先端研究を体験—体験入学会

□毎年8月に体験入学会を行います。誰でも、最先端の装置を用いる最先端研究を体験できます。最先端の研究を先取り体験しましょう。

## INFORMATION

□物質創成科学研究科ホームページ

<http://mswebs.naist.jp/>

□「いつでも見学会」(研究室の見学)

<http://mswebs.naist.jp/admission/147/>

物質創成科学研究科および物質科学教育研究センターでは、随時希望に応じて研究室等の見学を受け付けています。見学を希望される方は、見学希望の研究室の教授に電話もしくは電子メールにてお問い合わせください。

# 物質創成科学研究科は体系的な教育を通して養成した人材を優れた技術者・研究者として社会に送り出します。

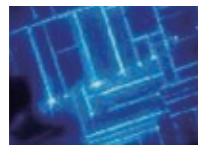
## 物質創成科学研究科の教育と研究

### 新領域を切り拓くナノ研究者の養成

「光ナノサイエンス」を中心に次世代の物質科学を担う国際的人材の育成

- 博士前期(修士)・後期(博士)課程を一貫して研究指導し、最短3年で学位取得(αコース)
- 複数専門性の導入による柔軟で視野の広い研究者・技術者の育成(πコース)
- 入学以前のバックグラウンドや本人の能力に合わせた、きめ細かな指導
- 博士後期(博士)課程の学生には、授業料相当額の教育研究費補助
- 海外の提携大学への派遣や受入を推進し、国際感覚を向上
- 一人当たりの研究費や特許の数で国際最高クラスの実績を誇る教員

新規な量子物質の創成



新規な情報物質の創成



新規な有機物質の創成



新規な生体物質の創成



多様なバックグラウンドを持つ学生

### 新しい半導体材料を科学することで、スマートフォンなど未来の電子機器を実現

私たちの研究室では、ディスプレイや太陽電池など半導体材料を用いた様々な電子デバイスを研究しています。私たちのモットーは、「自分の手で、世界初の素子をつくる」ことです。私たちの身の回りには、携帯電話やパソコンなどなくてはならない電気製品がたくさんあります。私たちは、無機材料や有機材料などいろいろな材料を研究することで、その特長を活かした電子デバイスを生み出しています。私たちの研究室では、材料の基礎をしっかり分析し、形成する方法を考えながら、一方で、応用として製品に近い構造まで「ものづくり」を行っています。基礎と応用をバランスよく研究することに力を入れています。研究室には、材料を分析する様々な装置や薄膜を形成したり加工したりするクリーンルームが完備されています。また、素子から発せられる微弱な光を解析することで、温度や電子の流れを推測するユニークな技術も確立しています。これらの研究環境をうまく使うことで、これまでになかった「世界初」の材料や素子を研究しています。

また、我々は単に便利なものだけでなく、地球の持続的発展に貢献したいと考えています。我々の研究は大きく分けて、エネルギーを創る研究(創エネ)とエネルギーを使わない研究(省エネ)の2種類に分類することができます。地球上にあまった光

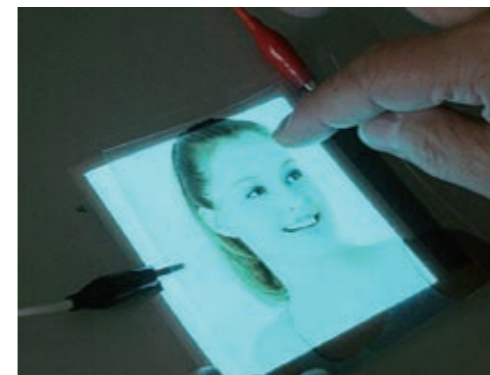


図1：無機EL材料を使ったフレキシブルディスプレイ

### 物質創成科学研究科／情報機能素子科学研究室

や熱を電気に変える太陽電池や熱電変換素子の研究は、いかにうまく効率を上げることが課題です。一方で、酸化半導体や窒化ガリウムをつかって、消費電力を極力抑えた薄膜トランジスタ(TFT)や高移動度トランジスタ(HEMT)の研究を行っています。ですから、学生の皆さんが研究を頑張ることは、社会に貢献することにつながっています。

我々の研究室のもう1つの特徴は、外とのつながりが広いことです。国内外の大学や企業と多くの共同研究を行っています。最近では、海外留学のインターンシップを行う学生さんが大勢いますので、フランスなど海外の大学とのネットワークも広がっています。例えば、エコールポリテクニク大学は、ナボレオンが創設したフランストップの大学で、毎年交換留学を行っています。

研究室の学生さんは、毎年、いろいろな分野の優良企業や大学に就職しています。自動車メーカー、電気メーカー、装置メーカー、化学メーカーなど幅広い企業に向けて、希望の就職先が早く決まるように、研究室をあげて応援しています。一緒に仲間に入りませんか!



図2：夏の研修旅行(長良川でのラフティング)

### 分子の世界の社会学、分子集団が生み出す機能性の解明と材料科学への応用

人間、一人一人の力は小さくても、社会集団を形成することでより大きな力を発揮することができます。これと同じことが分子の世界でも起きています。分子複合系科学研究室では、分子集団の協奏現象が生み出す機能性の理解とその材料科学への応用を目指しています。我々が研究対象としているのは、様々な分子が共存する複雑な生命システムです。生命システムの中では、様々な蛋白質と呼ばれる分子がそれぞれ個性を持ち、生理機能に対し役割を担っています。しかしながら、個々の蛋白質は生物に見られる高度な機能とかけ離れたささやかな機能を持っているにすぎません。我々が目の当たりにする生物が示す多様な機能性は、これら蛋白質が緩やかに結びついた集団が自律的な集合離散を繰り返すことによって実現されています。分子複合系科学研究室では、分子集団が示す機能性を解明するために、マイクロ流路デバイスとX線散乱法をはじめとした様々な分析手法を組み合わせることで、従来分析が困難だった、複雑な分子システム中の個々の分子の動態や集合離散を規定する相互作用を解析する新しい手法の開発を進めています。

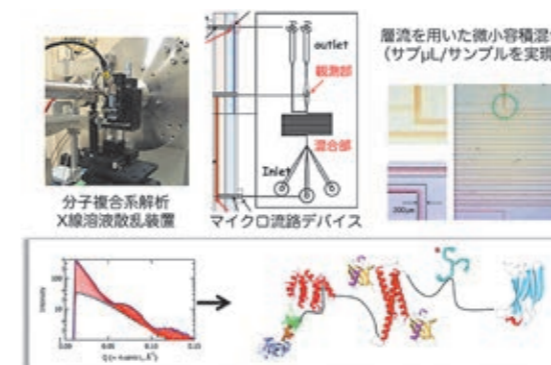


図1：分子複合系を解析するために、マイクロ流路技術と各種計測手法を組み合わせた独自の手法を開発しています

### 物質創成科学研究科／分子複合系科学研究室

蛋白質分子集団は、生理機能を生み出すのみならず、様々な生体材料の構成物にもなっています。個々の蛋白質には自分自身がなりたい構造が潜在的にプログラムされており、自発的にその構造に折り畳まれる性質を有しています(自己組織化)。蚕やクモの糸(シルク)等に代表される構造蛋白質と呼ばれる種類の蛋白質は、更に蛋白質同士が規則正しく凝集し、目に見える大きさの材料を構成します。シルクの中では、蛋白質同士が複雑な相互作用を介して強固に結びつくことによって、人間が作り出した人工物では再現することができない優れた特性を示します。これら天然のシルクを改変し再構成することができれば、身近な材料から航空機や宇宙で利用される特殊材料に至るまで、材料科学に革命をもたらすと言われています。しかしながら、現状、我々は蚕やクモのように上手に蛋白質を紡ぐことができません。当研究室では、個々の蛋白質や蛋白質集団が示す自己組織化能を詳細に理解することに努め、民間企業と協力することで新規蛋白質材料の開発と実用化、ひいては蛋白質材料科学とも呼べる新たな学術分野の開拓を進めています。

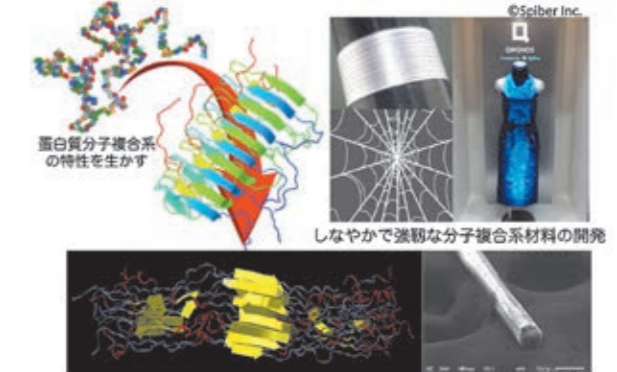


図2：分子複合系の特徴を生かした次世代材料の開発を進めています

## message from

企業人事担当者



市来 朗真

株式会社村田製作所  
人事部人事組織課

## 部品（ナカ）から世界は変えられる

様々な製品で「世界No.1シェア」を誇る、村田製作所。私たちは、材料・商品の開発、加工技術や設備開発、ソフトウェア開発など…ほぼ全てを自社の人材でこなします。

もちろんNAIST出身者の方々も、幅広い分野で幅広い年齢の方が活躍してくれています。様々な分野において、素晴らしい研究設備で世界最先端の研究をできるNAIST。彼らのムラタでの活躍の理由の1つは、きっとそこにあると思います。

そんなムラタの活躍の場はまさに「電気が使われる場所なら、どこでも」。きっとあなたのPC、スマートフォン、TV、自

動車にも「ムラタの技術」が…。

また私たちが掲げる合言葉は、「Innovator in Electronics」。常に新しい価値を創造し、提供していくことで、無限の可能性を秘めたエレクトロニクスの世界を「改革していく」企業でありたいと思っています。そのためにはまず、社員一人ひとりが「Innovator」である必要があります。新鮮な発想・チャレンジ精神で、ムラタに新しい風を吹き込んでくれる方に、そのフィールドを用意して、お待ちしております。

## message from

修了生

## 「大きな夢をNAISTで！」

皆様にとって、進学する大学院の決定は人生における重要なイベントです。NAISTは最高水準の研究設備を備え、物質創成、バイオ、情報の様々な分野で世界最先端の研究が行われています。また、企業との連携研究が活発な事もNAISTの大きな魅力です。研究成果が世の中の価値に直結するため、社会的にインパクトのある研究を実施できる環境が整っています。そのため、イノベティブな研究を志す方にはNAISTを強く推薦します。私自身、NAISTにて挑戦的な研究活動を体験できました。

私は新素材で医療に貢献することを志してNAISTの門をく

ぐりました。研究室では医用高分子の研究を行い、自主性を重んじた教授陣による指導の下、専門知識に加えて論理的な思考力を身に付けました。また、NAIST内外の様々な研究成果に刺激を受け、複眼的に研究を推進することが出来ました。今振り返ると、がむしゃらに「夢」に挑んだ、とても濃密な研究生生活でした。私は現在、血管治療用の「カテーテル」という医療機器を研究していますが、NAISTでの経験が業務を推進する上での武器になっていると実感しています。

NAISTには皆様の夢を叶える条件が揃っています。皆様もぜひ、NAISTの一員として、ご自身の夢を叶えて下さい。



生駒 和明

株式会社力ネカ  
医療器事業部 技術統括部  
医療器研究グループ  
(平成21年度 博士前期課程修了)

## message from

在校生①



村山 智寿

有機光分子科学研究室  
博士前期課程2年  
(東京理科大学理学部卒業)

## 最先端の測定機器が揃う環境は、研究面での大きな支え

NAISTは充実した研究環境の中で、新たな分野の研究をスタートできる場所だと思います。物質創成科学研究科は物理・デバイス系から化学・バイオ系まで、様々な分野を対象とした研究室で構成されています。こうした幅広い分野に必要な基礎知識は、入学してから半年間で各分野の講義を通じ得ることが出来ます。そのため、バックグラウンドの異なる分野でも、ベースを揃えた上で研究に打ち込むことが出来ます。

私は学部時代においては無機化学に興味を持ち、それに沿った分野の研究室を選択しました。しかし異分野の知識が今後研究を行っていく上で重要になると考えるようになり、NAIST入

学後は新しい分野に挑戦しました。

現在は有機エレクトロニクス材料への応用を目指した拡張π共役系に関する研究を行っています。日々の研究生生活は新しい発見の毎日であり、とても充実しています。こうした新たな体験は、NAISTに来たからこそ得られるものだと感じています。最先端の測定機器が揃う環境は、研究面での大きな支えとなっています。

皆さんもNAISTで新たな分野に挑戦し、幅広い視野で研究を進めてみませんか。

## message from

在校生②

## 気軽に相談できる他分野の仲間がいることは研究を進めていくうえで、大きな利点

NAISTの物質創成科学研究科ではバイオ、化学、物理、デバイスのさまざまな分野の人間が集まり、先進的な研究を行っています。学内での研究交流も非常に盛んで、私自身デバイスの研究を行っていますが、気軽に相談できる他分野の仲間がいることは研究を進めていくうえで、大きな利点となっています。また、共同設備には最先端の測定器がそろっており、迅速に研究を進めていくことができます。

私はもともと有機材料に興味を持っており、その中でも近年注目されている有機熱電変換の先駆者であられる中村先生がご在籍していることから、NAISTの受験を決めました。

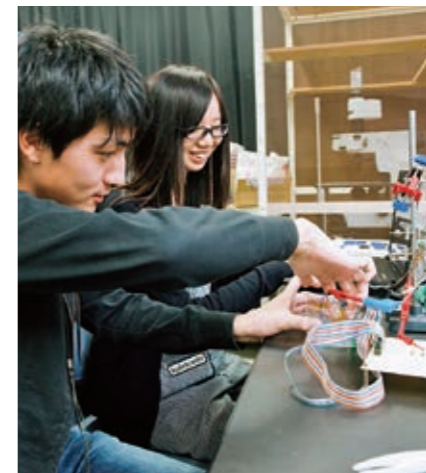
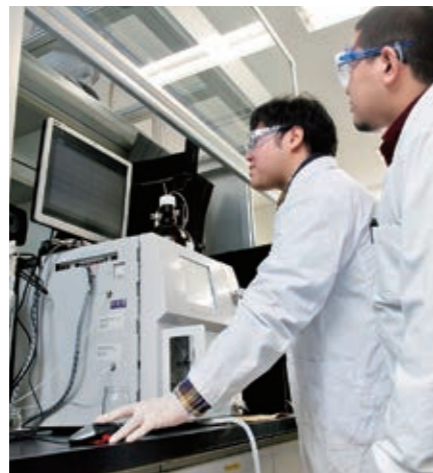
現在は中村先生の指導の下、最先端の研究を行い、学会などに積極的に参加しています。

NAISTでは学内にある学生寮や高い奨学金採択率など学生支援の制度が充実しており、安心して学生生活を送ることができます。博士後期課程の学生には海外での語学留学やラボステイを支援するプログラムがあり、国際的に活躍できる研究者の育成を積極的に行っています。

みなさんもNAISTで最先端の研究に打ち込んでみてください。



伊藤 光洋

有機固体素子科学研究室  
博士後期課程3年  
(大阪市立大学工学部卒業)

# 総合情報基盤センター

総合情報基盤センターは、附属図書館を含む本学の情報基盤に関する一元管理及び次世代システムの研究開発を行うことにより、本学における高度情報基盤を構築し、もって最先端の教育研究活動を支援するとともに、情報ネットワーク社会の進展に貢献することを目的としています。

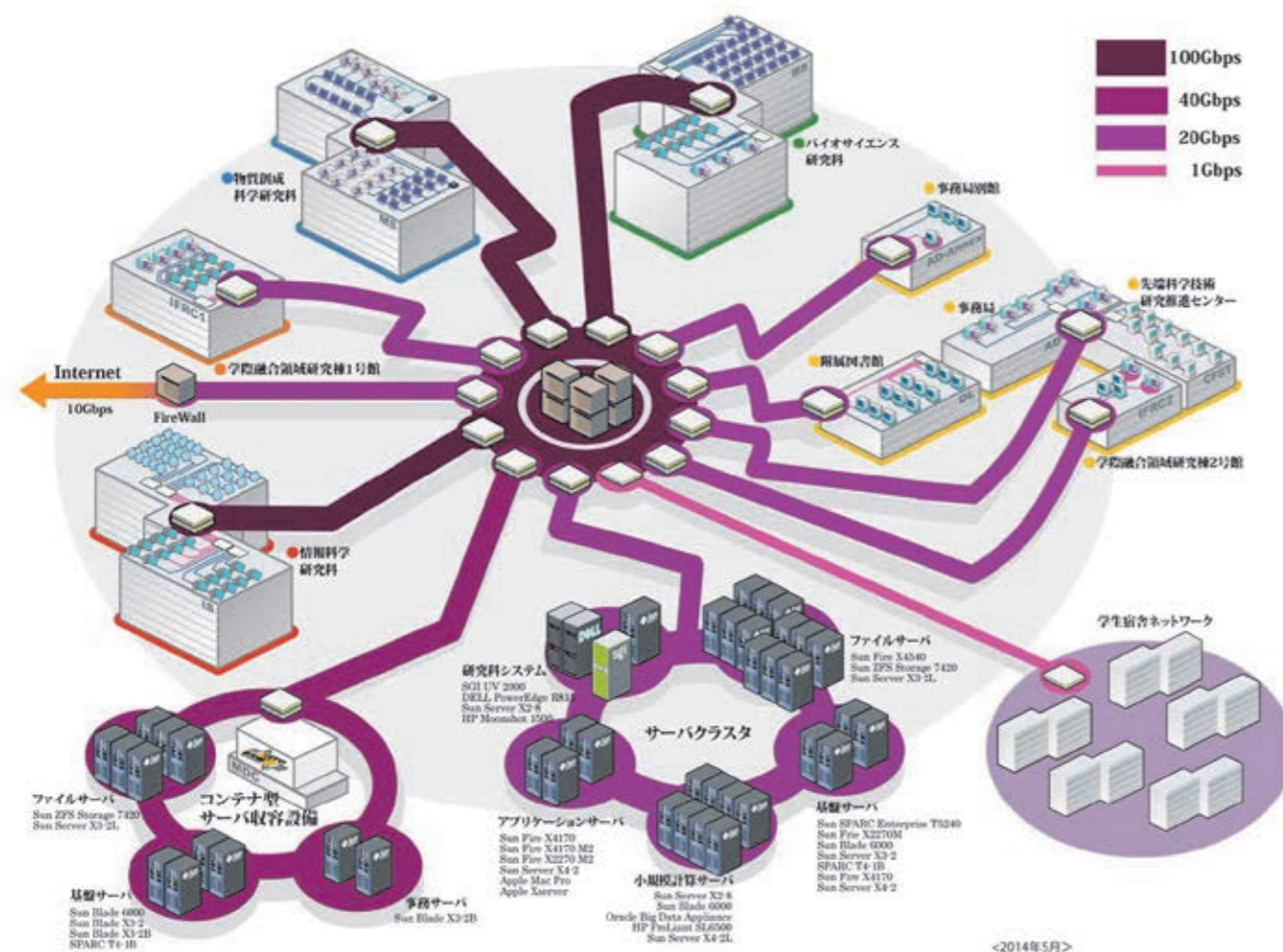
## 情報処理環境

### 曼陀羅システム

本学では先端科学・技術に関する大学院大学の教育研究を支援するため、一元的に管理・運営されるコンピュータネットワークのもと、「曼陀羅システム」と呼ばれる全学情報環境設備が整備されています。



最先端の研究を支援するためには、大容量のデータを瞬時に計算処理し、転送することが求められます。曼陀羅システムでは、テープドライブシステムも利用した総容量25.4ペタバイトにもおよぶ大容量記憶装置、ギガフロップスクラスの計算サーバ群、教育研究に必要な情報収集機能とマルチメディア情報発信機能を有した電子図書館システム、基幹伝送速度100ギガビット毎秒の超高速ネットワークが提供されています。また、曼陀羅システムを効率的に利用するために、学内利用者に対して一人1台のワークステーションPCが提供されています。



### 曼陀羅ネットワーク

「曼陀羅ネットワーク」は曼陀羅システムの基盤を支えるネットワークです。様々な機能を持つシステムを集約した曼陀羅システムでは、システム間の相互の通信を円滑に行う必要があります。さらに資源の密接な共有や高品位マルチメディア通信、グリッドコンピューティングへの対応も必須です。曼陀羅ネットワークでは、超高速キャンパスネットワークとして世界最速レベルの環境を実現すべく、開学時から常に整備を行っています。現在は幹線100ギガビット毎秒、支線20ギガビット毎秒の速度を提供しています。また、キャンパス全域で50~100メガビット毎秒の無線LANが使用できます。インターネットにも対外10ギガビット毎秒の高速専用回線で接続しており、国内外の主要サイトと超高速通信が可能です。曼陀羅ネットワーク内には4,000を超える端末が稼働しています。

### 附属図書館 (キャンパスマップ@)

本学附属図書館は本学の教育・研究活動(情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学)を支援する電子図書館サービスを提供しています。本学の電子図書館は、図書・雑誌を冊子体だけでなくデジタル技術により曼陀羅ネットワークを介して、いつでもどこでも自由に利用できることをコンセプトにスタートしました。現在では、電子化図書・雑誌だけでなく、授業ビデオ・学位論文などの大学生産物を提供するとともに、世界レベルの情報を統合的にフルテキストまで容易にアクセスできます。

また、図書や雑誌を冊子体で提供する来館型図書館サービスについても、本学の教職員および学生は24時間入退館が可能で、貸出返却が出来ます。折々のテーマに沿った図書を展示する「知の森コーナー」、グループ学習タイプの閲覧室「マルチメディアラウンジ」・「シアターラウンジ」を備え、また、他大学図書館・国立国会図書館・奈良県立図書館情報館とも連携し、幅広いサービスの充実に努めています。

### 電子図書館の主なサービス

- 高度な情報検索**  
本学の蔵書・電子化資料・電子ジャーナル・電子ブック・データベースを横断的に高速検索することができます。書誌・目次・抄録情報だけでなく、本文情報を含めたきめ細かい検索機能を提供しています。
- 授業アーカイブ**  
授業を録画し、データベース化して公開する「授業アーカイブ事業」を平成17年度から行っています。大学の要である日々の授業や講演を、許諾を得て録画・公開しています。
- 学内生産物の組織的な保存、管理**  
学内の学生、教員、研究員などが生産する学位論文、テクニカルレポート、科学研究費補助金研究成果報告書などの研究成果、また学内で行われる招待講演なども、著者または講演者から、インターネット経由で利用する許諾を得た上で、デジタル情報として収集し、データベース化することで一元的な保存、管理および提供を可能にしています。
- 新着情報通知機能 (SDI)**  
利用者があらかじめ登録したキーワードに合致する資料の新着情報を電子メールで自動通知します。
- パーソナライズ機能**  
Web 経由で各種申し込み、進捗状況の把握やオンラインコンテンツの管理が行えます。



◆シアターラウンジ (上) ・マルチメディアラウンジ(右)

「一人で静かに学習する場」としての図書館のイメージを変え、図書館資料と電子情報を活用しながらグループ学習や討論・共同作業が可能となる主体的な「学び」のためのスペースです。学生どうしの交流・サークル活動、学生・教職員のためのグループ活動の場として活用できます。



# 学生支援

学業・研究はもちろん、生活を支援する制度も充実

## 研究活動等に対する支援

本学では、教育研究の充実・活性化を図るため、外部資金や科学研究費補助金などの多様な研究費の導入を積極的に図り、研究基礎の充実を図るとともに、研究の担い手としての大学院生の処遇を改善することに努めています。

## 基本構想

大学院学生は、学生としての側面とともに、若手研究者としての側面を持ち、大学院における研究の担い手としての役割も有している。大学院生のこのような諸側面に留意しつつ、その適切な処遇を図ることとする。



## 実施状況

### ティーチング・アシスタント (TA) 制度の実施

将来、教育者となる意欲と優れた能力を持つ学生に、教育者としてのトレーニングの機会を提供するため、TA制度を設けています。博士前期課程2年次以上の学生を対象として、教育支援業務に従事させ、指導・教育方法を学ぶことを積極的に推進しています。

平成26年度  
採用実績

185名採用  
待遇／年間5～363時間（時給1,234～1,476円）  
※担当時間数・時給については、課程・在籍研究科や予算措置状況により一律ではありません。

### リサーチ・アシスタント (RA) 制度の実施

将来、研究者となる意欲と優れた能力を持つ学生に、研究者としての研究遂行能力の育成を図るため、RA制度を設けています。主に博士後期課程の学生を対象として、本学が実施する研究プロジェクト等の推進業務に従事させ、研究活動の効果的推進及び研究体制を充実強化しています。

平成26年度  
採用実績

246名採用  
一般的待遇／年間20～1,007時間（時給1,234～2,042円）  
※担当時間数は、予算措置状況により変わります。

### 本学独自の支援 博士後期課程に在籍する学生への 優秀学生奨学制度

本学では、特に優秀な学生を奨励・支援することにより、優れた人材の養成に資することを目的に、博士後期課程に在籍する学生のうち、学業成績が特に優秀であり、かつ人物が優れた者への奨学制度を実施しています（ただし、国費外国人留学生及び本学の外国人留学生特別奨学制度に採用された者を除く。）。

平成27年度  
支援実績

当該年度の授業料全額免除を実施 15名

※支援内容は、予算措置状況により変わります。

### 本学独自の支援 外国人留学生特別奨学制度

本学では、優秀で意欲のある私費外国人留学生（日本政府又は外国政府から奨学金を受領している外国人留学生以外の外国人留学生）に教育研究活動に専念させることを目的に、本学の留学生特別推薦選抜を合格したもので、学業成績が特に優秀な私費外国人留学生に対し、入学時における本国から日本までの渡航費、入学料・授業料の全額免除、RAとしての雇用等の支援を行う奨学制度を実施しています。なお、支援期間は、博士後期課程入学後3年間に限ります。

留学生特別推薦選抜を合格  
学業成績が特に優秀な  
私費外国人留学生

入学時における本国から日本  
までの渡航費、入学料・授業料  
**全額免除**

平成27年度  
支援実績 23名

## 積極的な海外派遣支援

共同研究、寄附金等の外部資金や各種競争的資金、支援財団による助成事業等により、学生が海外の国際学会等において論文（研究）発表するための費用（渡航費、滞在費等）に対する助成や、英語研修や研究活動のために海外の機関への派遣を積極的に行っています。

### 平成26年度海外派遣支援状況

被支援人数 301人  
一人当平均支援額 23万円  
(参考：総額6,927万円)

## 入学料・授業料免除、 入学料徴収猶予

本学では、下記①②の者を対象とし、選考の上、入学料/授業料の全額又は、一部を免除する制度があります。また、入学料については、徴収猶予の制度もあります。  
①経済的理由により入学料又は授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者  
②入学前1年以内に、学費負担者が死亡し、又は学生若しくは学費負担者が風水害等の災害を受けたこと等により、入学料又は授業料の納付が著しく困難であると認められる者



## 奨学金

### ①日本学生支援機構奨学金（旧：日本育英会奨学金）

学業・人物ともに優秀であり、かつ経済的理由により、修学が困難であると認められる場合には、本人の出願に基づいて選考の上、貸与されます。日本学生支援機構奨学金には、無利子の第一種奨学金制度と有利子の第二種奨学金制度があります。第一種奨学金の貸与をうけ、在学中に特に優れた業績をあげたものとして支援機構が認定した場合には、学資金の全部または一部の返還が免除される制度があります。

	入学時貸与月額など	
	第一種奨学金（無利子）	第二種奨学金（有利子）
博士前期（修士）課程	次の受給額から選択 50,000円、88,000円	次の受給額から選択 5・8・10
博士後期（博士）課程	次の受給額から選択 80,000円、122,000円	13・15万円
平成27年度入学貸与者	236名（100%）	21名（100%）

（ ）内は貸与率（貸与者／貸与希望者）。この貸与率は追加採用、臨時採用を含む平成27年度最終実績である。

### ②奈良先端科学技術大学院大学独自の奨学金

本学独自の奨学金として、博士後期課程に在籍する社会人学生に対して奨学金を給付し、修学を支援することにより、優れた人材の育成に資することを目的とする「奈良先端科学技術大学院大学博士後期課程社会人学生奨学金」があります。

給付額：入学初年度に10万円（返還不要）平成27年度給付実績：8名

### ③その他の奨学金

本学では、日本学生支援機構奨学金の他に文部科学省私費留学生奨励費等の奨学金制度に採択されています。

## 学生教育研究災害傷害保険 ・学研災付帯賠償責任保険

学生教育研究災害傷害保険は、学生が正課中、学校主催行事中、大学認定団体の課外活動中、キャンパス内の休憩中及び通学中や学外実習等の移動中に被った不慮の災害事故に対する救済措置として、全国の国・公・私立大学等の学生を対象とした傷害保険です。また、付帯賠償責任保険は、学生が正課、学校行事及びその往復途中で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償する保険です。

### 保険料

博士前期課程 2,430円  
博士後期課程 3,620円

## 学生なんでも相談

本学は、学生のキャンパスライフが快適であることを願っています。しかし、様々な問題や悩みが直面することがあると思います。本学でそういった学生を支援するため、各研究科、保健管理センター、教育支援課に相談員を配置し、「学生なんでも相談」窓口を設けています。

相談員が、問題解決へのアドバイスのほか、相談内容によっては、適切な相談窓口を紹介しています。



学業・研究はもちろん、生活を支援する制度も充実

学生宿舎

本学では、619戸の学生宿舎を用意しています。研究活動に十分な時間を確保するためには、相当な負担を必要とし、居住費の低廉な学生宿舎へ入居することが、時間的・経済的な負担を軽減する一助となっています。また、24時間体制で研究活動をサポートするため、学生宿舎内には学内LANも配置され、宿舎にしながら電子図書館や国内外の学術研究機関へのアクセスが可能となっています。

**【入居者の選考方法】**  
入居者の選考は、主に入学試験の成績をもとに決定します。



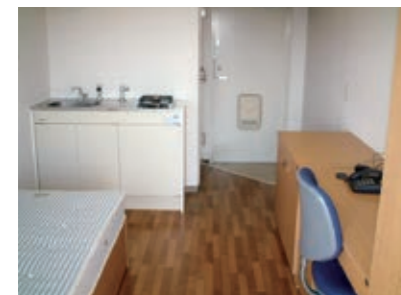
学生宿舎

■平成27年度入学者に係る入居状況

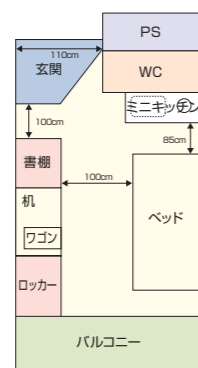
博士前期課程	博士後期課程	備考
117人 (47%)	87人 (100%)	( )は入居率(入居者/入居希望者)

※平成27年12月現在 (年度途中入居者含む)

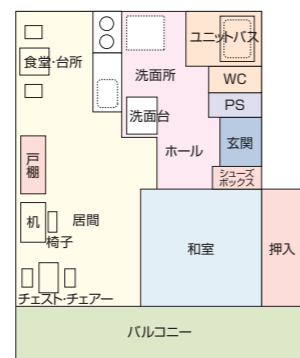
	単身用	夫婦用	家族用
居室数	559室	50室	10室
居室面積	13㎡	36.98~41.45㎡	51.56㎡
設備等	机、ベッド、ミニキッチン、トイレ等	机、キッチン、トイレ、浴室、洗濯機	机、キッチン、トイレ、浴室、洗濯機
共有設備	浴室、ランドリー室、ラウンジ	—	—
寄宿料(共益費込み)	月額 10,000円	月額 12,500円~13,300円	月額 15,300円
光熱水料	入居者負担	入居者負担	入居者負担



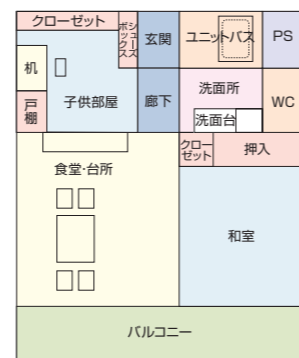
単身用居室



単身用居室



夫婦用居室



家族用居室

学生宿舎619戸 全戸インターネット常時接続可能 (無料)

■学生宿舎駐車場

駐車場は249台分あり、利用希望者のほぼ75%程度が割当てを受けています。割当てを受けることができなかった者は、公営駐車場を利用しています。なお、学生宿舎入居者が駐車場を利用するにあたっては、年間3,000円~4,000円程度が必要です。

利用者の声 **中野 元博** 物質創成科学研究科 博士後期課程2年



奈良に移り住んでは3年が経とうとしています。私自身、初めての下宿生活でしたので様々な不安がありましたが、学生宿舎を利用できておかげで生活面において心配や煩雑さを抱えなくて済み、非常に助かっています。メリットといたしましては、抜群のアクセスと安い家賃にあると思います。まず研究室から5分以内で戻れることは、ちょっとした忘れ物や荷物の配達等があった際に大きなアドバンテージとなります。また、自宅で料理を作ってちょっとしたパーティーなどに持参するなんてこともお手の物です。さらに、宿舎前に駐車スペースもありますので、買い物なども非常に便利です。私の経験上、自転車だけでは地形の関係上しんどいと感じることも多いので、自動車や原付の購入をおすすめします。アクセスの良さと並び1ヶ月10,000円という家賃は、金欠で悩む大学院生にとって魅力的に思えるはず。大学周辺に光熱費・受信料込みで15,000円を割るような物件の存在を私は知りません。部屋の狭さを訴える方もいらっしゃいますが、掃除の手間も省け歩き回らずに生活できることを考えればむしろプラスだと考えています。

大学借り上げ住宅【(独)都市再生機構】

学生宿舎への入居が叶わなかった方、また入居を希望されなかった方の下宿探しの一助として、大学周辺の(独)都市再生機構(旧日本住宅公団)の3団地(中登美第三団地、平城第一団地、富雄団地)賃貸住宅を大学が借り上げ、希望者に提供しています。

- 家賃等の目安  
間取り1DK~3DKの物件 ●家賃:3万5千~5万円  
●共益費:3千円前後  
●保証金:なし

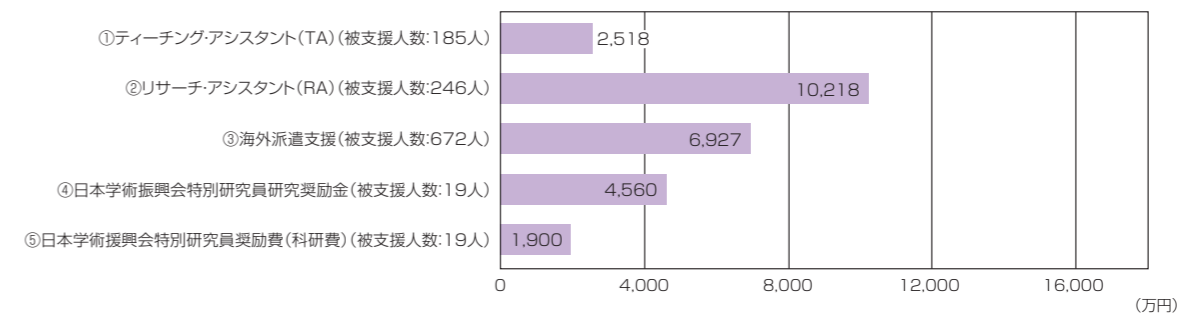
民間アパート等

アパート、マンションを斡旋する業者を紹介します。

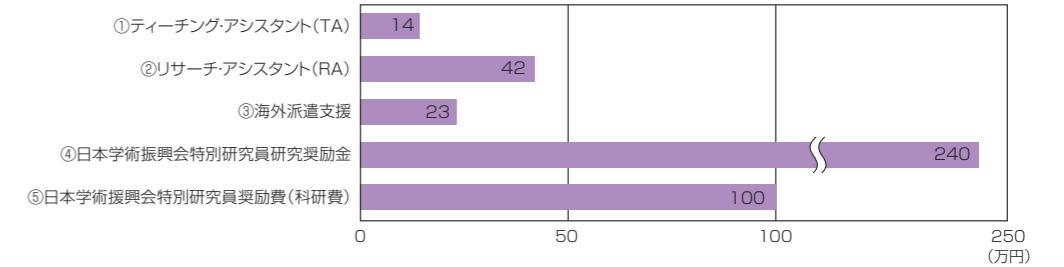
- 家賃等の目安  
(本学周辺におけるワンルームマンションの場合)  
間取り6~7畳の物件 ●家賃:2~5万円  
●共益費:0~5千円  
●保証金:5~20万円

大学院教育・研究活動支援

■支援総額



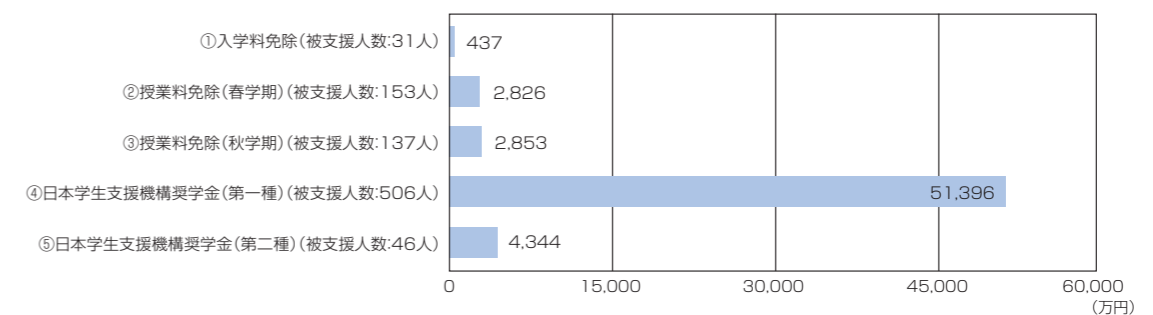
■1人当平均支援額



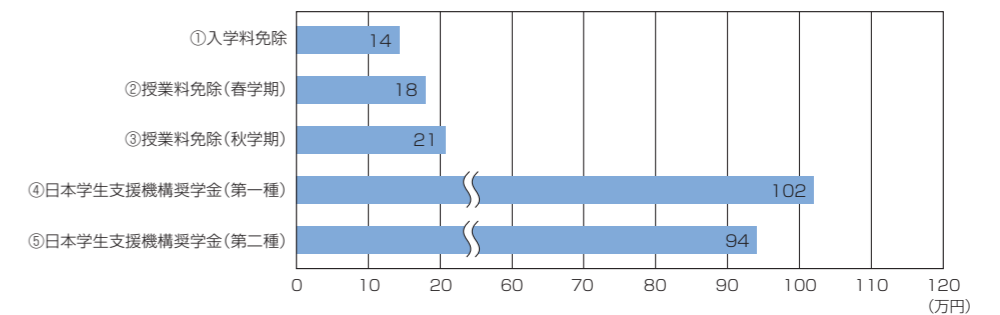
※上記支援額は、平成26年度における本学在学学生に対する経済支援の概算数値

学生生活支援

■支援総額



■1人当平均支援額



※上記支援額は、平成27年度における本学在学学生に対する経済支援の概算数値

# キャンパスマップ

関西学術研究都市にふさわしく、最先端の施設を完備



### 公営駐車場定期駐車券【本学学生】

1ヶ月 1,500円 3ヶ月 4,000円  
6ヶ月 7,500円

※申込みは、本学支援財団事務所（高山サイエンスプラザ内）にて。  
※定期駐車券は、駐車スペースの確保を約束するものではありません。

### ミレニアムホール⑥



入学式や学位記授与式、会議、講演などを行うことができる、多目的ホールです。

- ① 事務局
- ② 附属図書館（電子図書館）
- ③ 大学会館・保健管理センター
- ④ IRオフィス・研究推進機構
- ⑤ 学際融合領域研究棟2号館
- ⑥ ミレニアムホール
- ⑦ ゲストハウスせんたん
- ⑧ 情報科学研究科  
総合情報基盤センター
- ⑨ バイオサイエンス研究科  
遺伝子教育研究センター
- ⑩ 動物飼育実験施設
- ⑪ 植物温室
- ⑫ 物質創成科学研究科  
物質科学教育研究センター
- ⑬ バイオナノプロセス実験施設
- ⑭ 学際融合領域研究棟1号館
- ⑮ 学生宿舎
- ⑯ 職員宿舎
- ⑰ 事務局別館

### 福利厚生施設

#### ■大学会館③

学生及び教職員の厚生施設である大学会館に、食堂(300席)、喫茶室(30席)、売店(コンビニエンスストア)を設けています。売店では、文房具、書籍をはじめ、各種食料品などを取り揃えており、さらに、公共料金支払い、宅急便送付、D.P.E、クリーニング等の取次ぎサービスも行っています。

#### ■ゲストハウスせんたん⑦

本学を来訪する国内外からの研究者をはじめ、学生や教職員も利用することのできる福利厚生施設です。宿泊施設は手頃な料金で利用することができ、受験時の宿泊にも利用できます。施設内には宿泊者などが利用できる集会室やフィットネス室が設けられています。利用申し込みは、人事課福利厚生係(0743-72-5033)までお問い合わせください。

#### ■保健管理センター④

学生及び教職員の身体的、精神的健康の保持・増進をはかることを目的としています。内科医師および、看護師が常駐しており、定期健康診断、応急処置、健康相談、カウンセリング等を行っています。また、センターには、診察室、学生懇話室、休養室を設けています。

#### ■スポーツ施設

グラウンド  
テニスコート  
バスケットボールコート



### 産官学連携

本学は、開学当初から社会に開かれた大学として、社会人教育の実施、共同研究・受託研究の受入れ、産官学連携プロジェクトの構築等、産官学連携を積極的に推進しています。平成16年には、産官学連携推進本部(現 産官学連携推進部門〔図参照〕)を設置し、教育研究スタッフと事務局が一体となって産官学連携活動を活発に行っています。

こうした取組みの成果として、本学の外部資金の獲得は年間約30億円(過去5年平均)となり、教員1人当たりでは約1,500万円、またライセンス収入においても年間約3,000万円(過去5年平均)となり、教員1人当たりでは約15万円と全国の大学でも高い水準を維持するなど、優れた実績を挙げています。

また、産官学連携推進部門では、起業に関心のある学生を対象とした講義を実施しています。講義内容は実践的で、講義内で作成したビジネスプランが各種コンテストで入賞することも多く、充実した講義を提供しています。

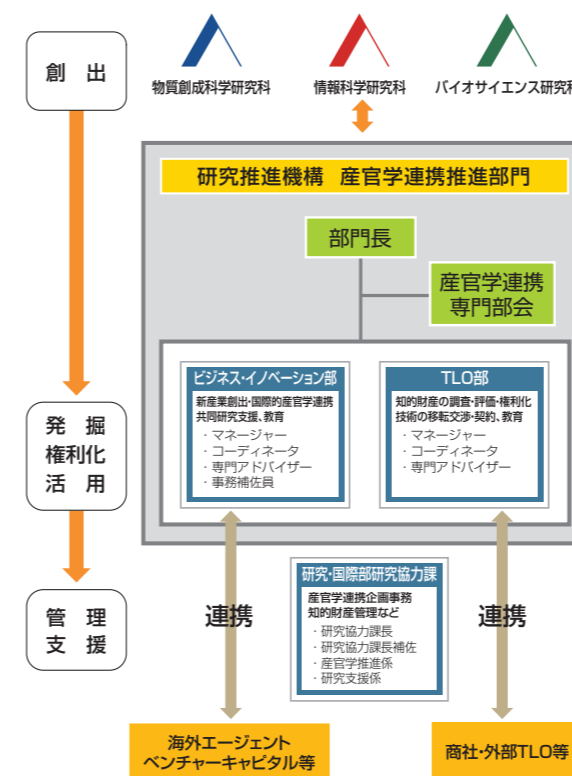
### リエゾンオフィス

本学では、東京・田町にリエゾンオフィスを開設し、首都圏との産官学連携を有機的に進めるほか、学生の就職活動支援にも活用しています。さらに、地域との連携を深めるために、中小企業の街・東大阪市にもリエゾンオフィスを設けています。



東京事務所

東大阪事務所



### 高山サイエンスプラザ

大学の隣接地に、本学の支援財団が運営する高山サイエンスプラザがあり、その施設内にもレストラン、研修室等が設けられています。

### 奈良先端科学技術大学院大学支援財団（高山サイエンスプラザ内）

奈良先端科学技術大学院大学の優れた特性や機能が最大限に発揮されるよう、その教育研究活動を積極的に支援するとともに、大学院大学と産業界、地方公共団体等との交流などを促進することにより、先端科学技術分野の研究開発等を担う研究者、技術者等の育成及び研究開発基盤の充実に寄与し、我が国の科学技術の発展に貢献することを目的として、平成3年に設立されました。同財団の基本財産(20億円)の運用益により、教育研究活動、国際交流活動、学術研究成果の普及活動に対する支援事業等が行われています。



高山サイエンスプラザ



# キャンパス周辺エリアMAP

1 高山竹林園



2 高山八幡宮



3 学研北生駒駅



4 サンマルク



5 グルメシティ



6 素戔嗚神社



18 高の原中央病院



17 高の原駅



16 イオン高の原



15 ゆららの湯



14 TSUTAYA



7 学研奈良登美ヶ丘駅



8 イオン奈良登美ヶ丘



9 コーナン学園前登美ヶ丘・ライフ学園前



10 リコラス



11 松伯美術館



12 アビタタウンけいはんな



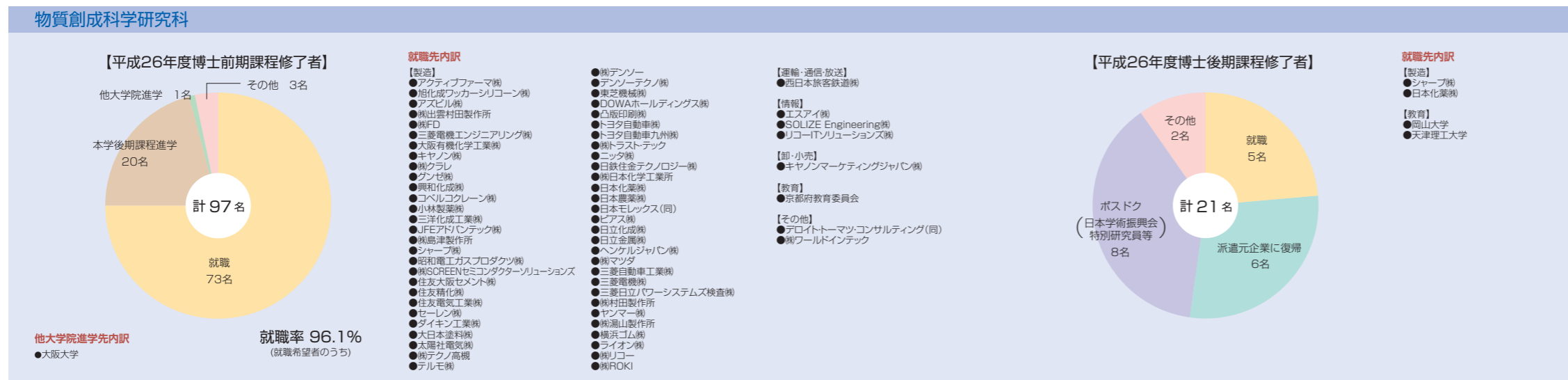
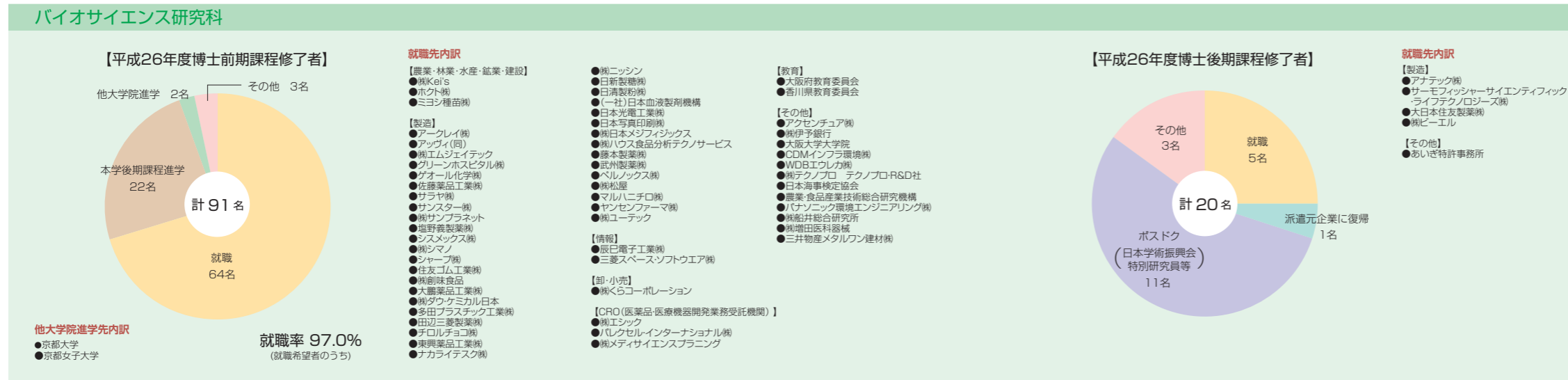
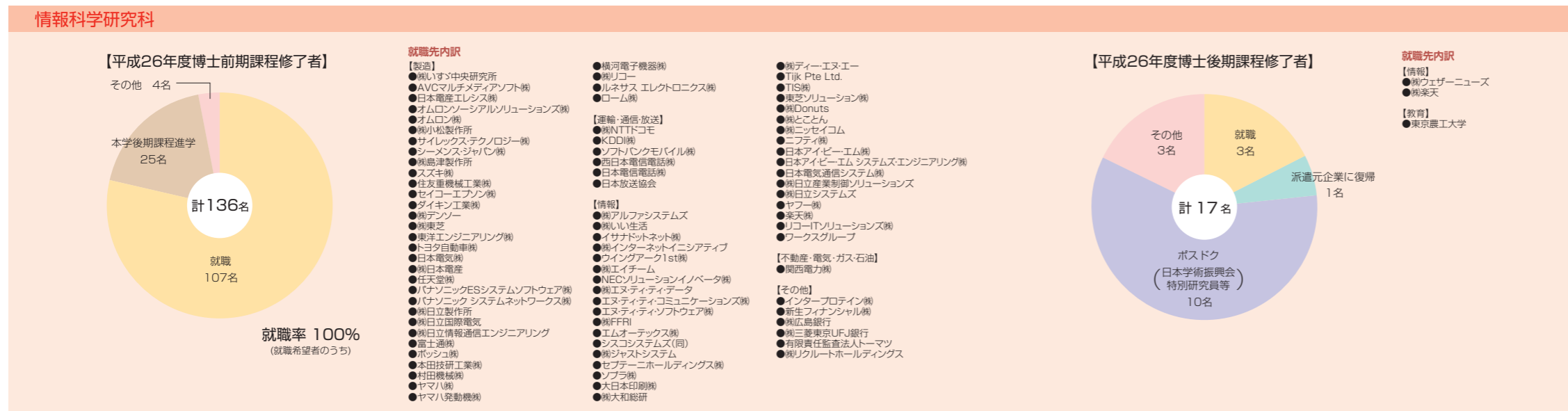
13 国立国会図書館関西館



# 修了後の進路及び就職状況

優秀な修了生たちが、幅広い分野の企業や大学で活躍中

※平成27年4月1日現在



本学では、個別指導を重視し、充実した就職支援プログラムを実施しており、就職についてのサポートもばっちりです。

- 第1回 就職ガイダンス
- 就職活動の進め方
- 第2回 就職ガイダンス
- 自己分析対策講座
- 第3回 就職ガイダンス
- 自己PR作成講座
- 第4回 就職ガイダンス
- 履歴書・エントリーシート対策講座
- 第5回 就職ガイダンス
- 面接対策・マナー講座
- 第6回 就職ガイダンス
- 就職ナビサイト活用講座
- 第7回 就職ガイダンス
- 企業・業界研究に役立つ新聞の読み方講座
- 第8回 就職ガイダンス
- 面接集中講座～集団面接～
- 第9回 就職ガイダンス
- 模擬グループディスカッション
- 第10回 就職ガイダンス
- 面接集中講座～集団面接～
- 第11回 就職ガイダンス
- 面接集中講座～集団面接～
- 第12回 就職ガイダンス
- 実践！模擬面接講座
- 第13回 就職ガイダンス
- 直前対策講座
- その他、個人相談、模擬エントリーシート添削、模擬試験(SPI対策テスト)、公務員試験対策、留学生向け就職ガイダンス、就職活動Reスタート講座、業界・仕事理解講座等実施  
(平成28年度の予定プログラムです)

**博士人材キャリア形成支援事業**

本学のキャリア支援室は、博士人材(博士後期課程学生およびポストドクター)のキャリア形成支援に力を置いた活動を行っています。

**支援プログラム**

- ・トップ座談会～企業マネジメント経験者との意見交換会～
- ・博士人材キャリアアップセミナー
- ・OB/FD講演会
- ・企業交流イベント

# 資料その他

## 学生数

研究科名	募集人員		現 員						合計	
	博士前期(修士)課程	博士後期(博士)課程	博士前期(修士)課程			博士後期(博士)課程				
			1年	2年	計	1年	2年	3年		計
情報科学研究科	135	40	138(19)	145(12)	283(31)	45(7)	37(6)	41(4)	123(17)	406(48)
バイオサイエンス研究科	125	37	124(41)	126(43)	250(84)	33(13)	31(10)	46(11)	110(34)	360(118)
物質創成科学研究科	90	30	107(20)	105(15)	212(35)	39(5)	29(1)	23(5)	91(11)	303(46)
合計	350	107	369(80)	376(70)	745(150)	117(25)	97(17)	110(20)	324(62)	1069(212)

(平成28年1月1日現在)

※赤字は女性を内数で示す。  
※募集人員・現員には、秋学期入学者を含む。

## 学位授与状況

研究科名		博士前期課程			博士後期課程		
		修士(工学)	修士(理学)	修士(バイオサイエンス)	博士(工学)	博士(理学)	博士(バイオサイエンス)
情報科学研究科	平成24年度	132(3)	3(0)	—	25(7)<2>	3(1)	—
	平成25年度	134(6)	4(0)	—	28(7)<3>	2(0)	—
	平成26年度	128(3)	8(1)	—	15(2)	2(0)	—
	累計(H5~26)	2779(146)	122(9)	—	523(165)<14>	49(9)	—
バイオサイエンス研究科	平成24年度	—	—	114(0)	—	—	15(1)<1>
	平成25年度	—	—	115(0)	—	—	25(1)
	平成26年度	—	—	91(0)	—	—	20(1)
	累計(H7~26)	—	—	2185(3)	—	—	403(14)<32>
物質創成科学研究科	平成24年度	70(0)	24(0)	—	13(1)	7(2)	—
	平成25年度	73(1)	26(0)	—	12(1)	8(3)	—
	平成26年度	83(0)	14(0)	—	14(2)	7(2)	—
	累計(H11~26)	1201(7)	286(4)	—	167(41)	96(26)	—

(平成27年3月31日現在)

※( )は、短期修了者数を内数で示す。< >は、本学の学位規程第3条第3項による学位授与者数を外数で示す。

## 奈良先端科学技術大学院大学外国人留学生サポート基金

本学の外国人留学生が修学又は研究に専念するため、不測の事態に陥った際の援助や一時的な経済・生活支援を行うことを目的に基金を設置しました。本基金を活用して救済者費用保険への加入、留学生への一時金貸付、留学生住宅総合補償制度への加入、新規渡日留学生への生活必需品の貸与等、留学生が安心して学修できるように取り組んでいます。



## 学術交流協定の締結

本学では、海外の教育研究機関と、共同研究、共同シンポジウム、講義の実施、学術情報及び学術資料の交換並びに教職員及び大学院学生の交流を行っています。これらの交流を促進するため、学術交流協定の締結を積極的に進めています。

協定は相手大学等と事前の協議を重ねて締結されており、現在、大学間協定は52件、部局間交流協定が28件締結されています。

**【全学】**

- ガジャマダ大学
- ボゴール農業大学
- インドネシア大学
- ハサヌディン大学
- バンボン工科大学
- ジェンダル・ソーデルマン大学
- マヒドン大学
- チュラロンコン大学
- カセサート大学
- 光州科学技術院
- ハンノット大学
- 浦項工科大学
- 国立交通大学
- 南台科技大学
- 中国科学院 遺伝学発生生物学研究所
- 天津理工大学
- 遼寧大学
- 香港理工大学
- 蘇州大学
- 中国科学院 長春応用化学研究所
- アテネオデマニラ大学

- フィリピン大学
- ベトナム国家大学 ハノイ自然科学
- ベトナム国家大学 ハノイ工業技術
- フエ大学科学大学校
- マレーシアサイエンス大学
- マラヤ大学
- マレーシアアブラ大学
- マレーシア工科大学
- トック・アブドゥル・ラーマン大学
- バングラデシュ工科大学
- インド工科大学ラジャスタン校
- アーヘン工科大学
- ユストゥス・リービヒ大学ギーゼン
- オットー・フォン・ゲーリケ大学マグデブルク
- カールスルーエ工科大学
- レーゲンスブルク大学
- オーボーンアカデミー大学
- ポルサバチ工科大学
- ポアティエ大学
- エコールポリテクニク
- エコールノルマル・シュペリール・カジャン校
- ルーバン・カトリック大学

- サンクトペテルブルク工科大学
- カリアリ大学
- ナイロビ大学
- カリフォルニア大学デービス校
- ハワイ大学マノア校
- カリフォルニア大学サンディエゴ校
- クイーンズ大学キングストン校
- シドニー工科大学
- ユニテック工科大学

**【バイオサイエンス研究科】**

- ベトナム科学技術院 バイオテクノロジー研究所
- 南北大学
- ミネソタ大学 バイオテクノロジー研究所
- プリティッシュコロンビア大学 理学部

**【物質創成科学研究科】**

- 南京大学 化学工程院
- 東北師範大学 化学学院
- ベトナム科学技術院 物質科学研究所
- インド自然科学教育研究大学・トリバンダム校
- チューリヒ大学 理学部
- ライオンマイン応用科学大学 工学部
- ライデン大学 理学部
- デルフト工科大学 電子数値情報工学部
- ミシガン大学 工学部 高分子科学技術センター
- ジェームズクック大学 薬学分子科学研究科

**【情報科学研究科】**

- 湖南大学 信息科学与工程学院
- 清華大学 計算機科学系
- 香港城市大学 コンピューターサイエンス学科
- 東北師範大学 電子情報技術院
- ベトナム科学技術院 情報技術研究所
- ベトナム国家大学ホーチミン市科学大学電子通信学部
- ベトナム国家大学ターナン市科学技術大学電子通信学部
- ラオス国立大学 工学部
- インドKJソム工科大学
- ウルム大学 工学/コンピューターサイエンス学部
- オウル大学 理学部 情報処理科学科

学術交流協定締結状況 (平成28年1月1日現在)

## 留学生

国・地域	アジア													アフリカ	中東	中南米	北米	ヨーロッパ						オセアニア	合計									
	中	イ	マ	タ	フ	ベ	イ	ン	韓	モ	ラ	パ	ス	コ	エ	ナ	ケ	タ	中	中	南	米	イ	タ		ロ	ス	ポ	ル	ベ	ス	オ	ス	ト
国費外国人留学生	博士前期課程	1	7	6	9	1	2	1	1	1	1	1	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	37
	博士後期課程	8	9	16	11	8	4	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	73	
	研究生	2	1	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11	
	特別研究学生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
私費外国人留学生	博士前期課程	10	2	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	22	
	博士後期課程	13	12	4	4	3	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	53	
	研究生	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
	特別研究学生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
外国人学生	博士前期課程	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	博士後期課程	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5	
	研究生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
	特別研究学生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
計	37	31	30	29	15	14	3	3	2	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	207		

国費外国人留学生 121名 (情報68人 バイオ41人 物質12人)  
私費外国人留学生 86名 (情報45人 バイオ21人 物質20人)

※赤字は女性を内数で示す。(平成28年1月1日現在)

# 入学者選抜試験 (平成29年度)

大学や企業から、研究への高い志を持つ学生を募集中

募集人員/入試日程

博士前期課程	【試験回】	【出願期間】	【選抜期日】	【合格発表】	【入学手続】
情報科学研究科 (募集人員 135名)	高専推薦選抜	H28.4.11(月)~ H28.4.15(金)	H28.6.6(月)~ H28.6.8(水)	H28.7.15(金)	H29.2下旬 (秋学期入学者はH28.9下旬)
	第1回 (H28秋学期第2回)	H28.6.6(月)~ H28.6.8(水)	[本学] H28.7.6(水)~ H28.7.9(土) [東京] H28.7.4(月)	H28.7.15(金)	
	第2回	H28.9.12(月)~ H28.9.14(水)	H28.10.11(火)~ H28.10.12(水)	H28.10.18(火)	
バイオサイエンス 研究科 (募集人員 125名)	高専推薦選抜	H28.4.11(月)~ H28.4.15(金)	H28.6.6(月)~ H28.6.8(水)	H28.7.15(金)	H29.2下旬 (秋学期入学者はH28.9下旬)
	第1回 (28年度秋学期国際コース)	H28.6.6(月)~ H28.6.8(水)	[本学] H28.7.6(水)~ H28.7.9(土) [東京] H28.7.4(月)	H28.7.15(金)	
	第2回	H28.9.12(月)~ H28.9.14(水)	H28.10.11(火)~ H28.10.13(木)	H28.10.18(火)	
物質創成科学研究科 (募集人員 90名)	高専推薦選抜	H28.4.11(月)~ H28.4.15(金)	H28.6.6(月)~ H28.6.8(水)	H28.7.15(金)	H29.3下旬 (秋学期入学者はH29.9下旬)
	第1回 (28年度秋学期国際コース第2回)	H28.6.6(月)~ H28.6.8(水)	[本学] H28.7.6(水)~ H28.7.9(土) [東京] H28.7.4(月)	H28.7.15(金)	
	第2回	H28.9.12(月)~ H28.9.14(水)	H28.10.11(火)~ H28.10.13(木)	H28.10.18(火)	

※飛び入学による受験者については、上記合格発表日に仮合格として発表し、後日、所定の手続きを経た上、あらためて合格者として発表します。詳しくは学生募集要項を確認してください。  
※高専推薦選抜については、出願期間を適性審査書類提出期間、選抜期日を出願期間に読みかえてください。

博士後期課程	【試験回】	【出願期間】	【選抜期日】	【合格発表】	【入学手続】
情報科学研究科 (募集人員 40名)	第1回 (H28秋学期第2回)	H28.7.25(月)~ H28.7.27(水)	H28.8.22(月)~ H28.8.25(木)	H28.8.30(火)	H29.2下旬 (秋学期入学者はH28.9下旬)
	第2回 (H29秋学期第1回)	H29.1.30(月)~ H29.2.1(水)	H29.2.20(月)~ H29.2.22(水)	H29.2.24(金)	H29.3下旬 (秋学期入学者はH29.9下旬)
バイオサイエンス 研究科 (募集人員 37名)	H28 秋学期	H28.7.25(月)~ H28.7.27(水)	H28.8.29(月)~ H28.8.30(火)	H28.9.1(木)	H28.9下旬
	第1回	H28.8.29(月)~ H28.8.31(水)	H28.10.4(火)~ H28.10.5(水)	H28.10.18(火)	H29.2下旬
物質創成科学研究科 (募集人員 30名)	第1回 (H28秋学期第2回)	H28.7.25(月)~ H28.7.27(水)	H28.8.22(月)~ H28.8.25(木)	H28.8.29(月)	H29.2下旬 (秋学期入学者はH28.9下旬)
	第2回 (H29秋学期第1回)	H29.2.6(月)~ H29.2.8(水)	H29.3.8(水)~ H29.3.9(木)	H29.3.13(月)	H29.3下旬 (秋学期入学者はH29.9下旬)
情報科学研究科 バイオサイエンス研究科 物質創成科学研究科	留学生特別推薦選抜試験 (H28秋学期第2回)	H28.5.30(月)~ H28.6.3(金)	H28.6.6(月)~ H28.6.17(金)	H28.7.15(金)	H28.9下旬
	留学生特別推薦選抜試験	H28.12.5(月)~ H28.12.9(金)	H28.12.12(月)~ H28.12.22(木)	H29.1.13(金)	H29.2下旬
情報科学研究科	留学生特別推薦選抜試験 (H29秋学期第1回)	H29.2.6(月)~ H29.2.8(水)	H29.2.13(月)~ H29.2.17(金)	H29.2.24(金)	H29.9下旬
バイオサイエンス研究科 物質創成科学研究科	留学生特別推薦選抜試験 (H29秋学期第1回)	H29.2.27(月)~ H29.3.3(金)	H29.3.6(月)~ H29.3.9(木)	H29.3.13(月)	H29.9下旬

入学に必要な学費

【平成29年度】 入学料 282,000円(予定額) 授業料 535,800円(半期分267,900円)(予定額)

(注)入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合には、改正時から新たな納付金額が適用されます。

- 試験は主に面接により行います。 ●博士前期課程は1年間に3回入試を行います。
- 秋学期入学の入試も実施します。(バイオサイエンス研究科、物質創成科学研究科の博士前期課程は国際コースのみ実施)。
- 博士前期課程1回目の入学者選抜試験は、東京会場でも受験できます。

入学状況

※他分野とは、文系出身者等を指しています。

課程	研究科名	年度	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学者のうち		
							社会人	他分野※	飛び入学
博士前期課程	情報科学研究科	平成25年度	443	410	159	124	5	56	4
		平成26年度	323	303	169	127	6	58	1
		平成27年度	272	250	168	129	8	67	2
	バイオサイエンス 研究科	平成25年度	194	184	148	100	4	22	0
		平成26年度	214	206	164	115	3	19	0
		平成27年度	219	213	169	119	1	17	0
物質創成科学研究科	平成25年度	263	246	146	99	4	18	0	
	平成26年度	303	281	161	106	1	17	0	
	平成27年度	310	299	158	104	5	24	0	
博士後期課程	情報科学研究科	平成25年度	26	25	25	23	0	1	—
		平成26年度	27	27	25	24	0	1	—
		平成27年度	40	40	39	37	4	5	—
	バイオサイエンス 研究科	平成25年度	35	35	34	29	2	0	—
		平成26年度	31	31	29	25	0	0	—
		平成27年度	26	25	25	25	0	0	—
	物質創成科学研究科	平成25年度	21	21	21	20	3	0	—
		平成26年度	29	29	29	29	6	2	—
		平成27年度	33	33	33	31	4	0	—

秋学期入学者は含めていません。

平成27年度博士前期課程の試験回別入試結果

	情報科学研究科			バイオサイエンス研究科			物質創成科学研究科		
	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【第1回】	【第2回】	【第3回】
出願者	178	56	38	148	58	13	176	108	26
受験者	169	49	32	147	54	12	174	101	24
合格者	123	26	19	123	39	7	108	46	4
入学者	92	19	18	83	30	6	61	39	4

秋学期入学者は含めていません。

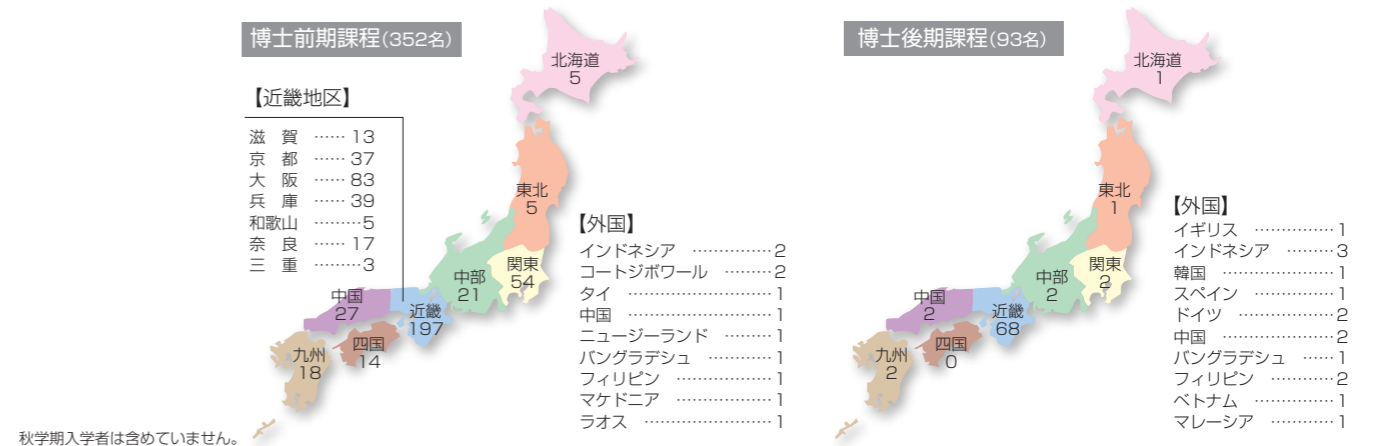
平成28年度博士前期課程の試験回別入試結果

(平成28年1月1日現在)

	情報科学研究科			バイオサイエンス研究科			物質創成科学研究科		
	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【第1回】	【第2回】	【第3回】
出願者	223	71	—	150	53	—	122	81	—
受験者	210	66	—	145	51	—	115	70	—
合格者	136	20	—	120	41	—	86	49	—

※第3回入学者選抜試験は平成28年1月1日現在において未実施。

平成27年度入学者の出身大学・大学院等の所在地



秋学期入学者は含めていません。

INFORMATION

●各研究科のホームページの入試Q&A コーナー等で、入試に役立つ情報が多数掲載されていますので、一度ご覧ください。

# 学生募集イベント

詳細は本学ホームページ (<http://www.naist.jp>) をご覧ください。

## 受験生のためのオープンキャンパス

本学では毎年、受験生を対象に学内施設を公開するオープンキャンパスを開催しています。研究室訪問や研究機器のデモンストレーションなどを通して、本学の最先端の教育・研究内容を知ることができます。(平成28年度は平成28年5月と平成29年2月に開催予定)



5月のオープンキャンパスでは、博士前期課程第1回入試の出願を控えた受験生を対象に入試説明会を開催します。

## 学生募集説明会

本学では毎年、全国各地で受験生を対象に学生募集説明会を開催しています。事前申込は不要で、各研究科の教員から研究内容、学生生活、入試のことなどについて説明いたします。

### 【平成28年4～5月説明会】

仙台、東京、富山、名古屋、南草津、京都、大阪、徳島、米子、岡山、福岡で開催予定。

### 【平成28年8～9月説明会】

東京、京都、大阪、神戸で開催予定。



※上記の他、各研究科においてイベントを開催しています。詳細は各研究科のホームページをご覧ください。

情報科学研究科: <http://isw3.naist.jp/>

バイオサイエンス研究科: <http://bsw3.naist.jp/>

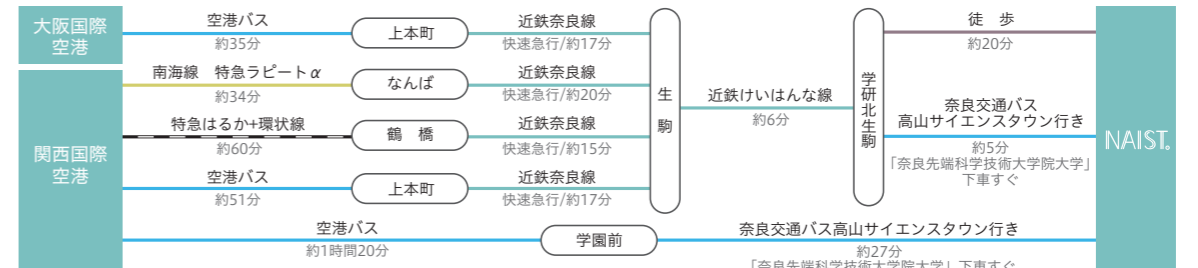
物質創成科学研究科: <http://mswebs.naist.jp/>

# Access

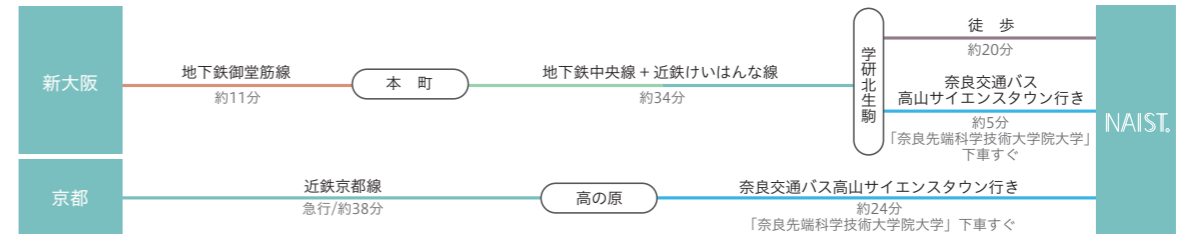
詳細は本学ホームページ (<http://www.naist.jp>) をご覧ください。



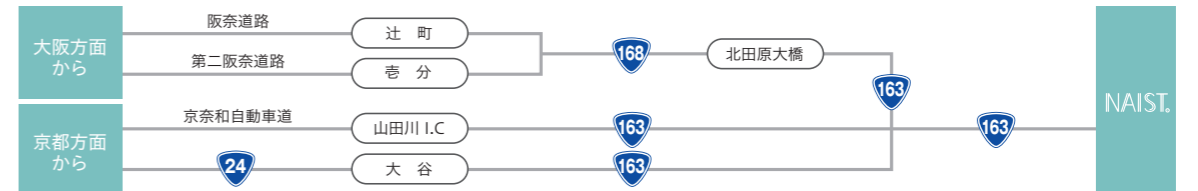
## ● 空港から



## ● 電車で新大阪・京都から



## ● 車で大阪方面・京都方面から



## NARA INSTITUTE of SCIENCE and TECHNOLOGY 奈良先端科学技術大学院大学

〒630-0192 奈良県生駒市高山町8916番地の5 奈良先端科学技術大学院大学 教育支援課  
 電話/0743(72)5083・5084 FAX/0743(72)5014  
 メールアドレス/exam@ad.naist.jp ホームページ/http://www.naist.jp/